

C I Aフォーラム研究会報告

実践的な内部監査能力チェックシート
の策定について

研究会 No. h 1（内部監査人育成ベストプラクティス研究会）

C I Aフォーラムは、C I A資格保持者の研鑽及び相互交流を目的に活動する、一般社団法人日本内部監査協会（I I A - J A P A N）の特別研究会である。各研究会は、担当の座長が責任をもって自主的に運営し、研究期間、目標成果を設定し、研究成果を発信している。

当研究報告書は、C I Aフォーラム研究会No. h 1が、その活動成果としてとりまとめたものである。報告書に記載された意見やコメントは、研究会の「見解」であり協会の見解を代表するものではなく、協会がこれを保証・賛成・推奨等するものでもない。

I. はじめに

組織（企業、団体等）を取り巻く環境が目まぐるしく変わり、内部監査部門に求められるレベルがますます高度化する中で内部監査人の育成が極めて重要であるとの認識のもと、我々の研究会は「内部監査人育成のベストプラクティス」を主題として、「内部監査人の育成」という普遍的なテーマについて継続的に議論を重ねている。

直近では『月刊監査研究』の2021年7月号に「内部監査の高度化に向けた態勢整備と人材育成の取組みについて」として研究成果を発表した。その後の研究テーマを検討している中で、内部監査人協会（I I A）が「内部監査能力フレームワーク」の改訂版を2020年（『月刊監査研究』の日本語訳掲載は2021年1月号）に公表した。

この公表されたフレームワークが内部監査人育成についての決定的な基準・標準になり得るの思い、期待の一方で、現行の内容は周辺領域も含め一定程度の内部監査の知識を持つ者でないと理解が難しいのではとも感じた。

そこで、我々の研究会では、一般的な日本の

組織（企業、団体等）において、内部監査部門への転入者でも容易に理解できるよう、平易な文書で、かつ、ポイントとなるキーワードには解説も添えて、汎用的な「II. 内部監査能力チェックシート」を策定することとした。

策定にあたってのステップとしては、以下の3段階とし、各メンバーに分担を割り当て、整理した内容を持ち寄って、毎月の研究会の中で認識を合わせ、必要であれば英語の原文に立ち返って議論等を重ねた。①I I Aの現行のフレームワークのキーワードの解説と頻出動詞の類型化等、②上記①を踏まえた研究会としての解釈文整理等、③上記②を踏まえた全体のトーン合わせ、実践的シート策定等。

このI I Aの内部監査能力フレームワークは「専門性」「実施」「環境」「リーダーシップとコミュニケーション」の4つの知識エリアの中の23個の項目を「一般的認識」「応用知識」「専門家」という3段階の能力レベル毎に定義している。情報量が多く多岐にわたるため、研究会での認識合わせや議論、仕上げ等に約2年を要したが、ようやく整理が完了したのが次頁以下のシートである。

II. 内部監査能力チェックシート

1. 専門性領域

① 内部監査の使命

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>内部監査部門の目的、権限、および責任を説明し、アシュアランス業務とコンサルティング業務を区別する。</p> <p>Describe the purpose, authority, and responsibility of the internal audit activity; distinguish between assurance and consulting services.</p>	<p>内部監査人は、内部監査部門の目的、権限、および責任を説明することができ、アシュアランス業務とコンサルティング業務を区別することができる。</p>	<p>・内部監査部門の目的 ⇒組織体の運営に関し価値を付加し、また改善するために行われる、独立にして、客観的なアシュアランス業務およびコンサルティング・サービスを提供すること。内部監査部門は、ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロールの各プロセスの有効性を評価・改善するために、専門職として規律ある姿勢で体系的な手法を用いることにより、組織体とその目標を達成することを支援する。</p> <p>・内部監査部門の権限 ⇒内部監査部門が、業務遂行するために必要とされる様々な記録、物的財産および人に対する全面的なアクセス権限</p> <p>・内部監査部門の責任 ⇒継続的に責任のある主な領域。主な領域とは、例えば次の事項である。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 内部監査が評価する範囲を定めること - 内部監査部門の計画を立案すること - 立案した内部監査部門の計画を取締役に提示し承認を求めること - 内部監査の個々の業務を実施すること - 結果を伝達すること - 内部監査の個々の業務の報告書を配布すること - 経営管理者の行う改善措置をモニターすること <p>c.f. 「基準1000—内部監査の目的、権限および責任」 ⇒内部監査部門の目的、権限および責任は、内部監査人協会（IIA）が定める「内部監査の使命」および「国際フレームワーク」の必須の構成要素に適合し、内部監査基本規程において正式に定義されなければならない。</p> <p>・アシュアランス業務 ⇒組織体のガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロールの各プロセスについて独立的評価を提供する目的で、証拠を客観的に検証すること。例として、財務、業務遂行、コンプライアンス、システム・セキュリティおよびデュー・デリジェンスなどに関する個々のアシュアランス業務が挙げられる。</p> <p>・コンサルティング業務 ⇒助言およびそれに関連した依頼者向けの業務活動であって、その活動の内容と範囲は、依頼者との合意によるものであり、内部監査人が経営管理者としての職責を負うことなく、価値を付加し、組織体のガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロールの各プロセスを改善することを意図したものである。例として、診断、助言、ファシリテーションおよび教育訓練が挙げられる。</p>	<p>※IPPF (Internal Professional Practices Framework)：内部監査人協会「専門職の実施の国際フレームワーク—2017年版—(IPPF)」、2017年</p> <p>・IPPF「内部監査の専門職の実施の国際基準」(以下、「基準」) 1000, 用語一覧</p> <p>・IPPF「内部監査の定義」(以下、「定義」)</p> <p>・IPPF「内部監査の使命」(以下、「使命」)</p> <p>・日本内部監査協会「内部監査アシュアランス業務とアドバイザリー業務 第4版」、2021年</p>
応用知識	<p>「基準」に適合してアシュアランス業務とコンサルティング業務の両方を実施する能力を実証する。</p> <p>Demonstrate ability to conduct both assurance and consulting engagements in conformance with the Standards.</p>	<p>内部監査部門の主旨は、IPPF (「専門職の実施の国際フレームワーク」) の「基準」に沿って、アシュアランス業務とコンサルティング業務の両方を実際に実施することができる。</p>	<p>・「基準」 ⇒「内部監査の専門職の実施の国際基準」</p>	
専門家	<p>価値を付加し組織体の運営を改善するためにアシュアランス業務とコンサルティング業務の両方を実施する、内部監査部門の能力をレビューする。</p> <p>Review the internal audit activity's ability to conduct both assurance and consulting activities to add value and improve the organization's operations.</p>	<p>内部監査部門長は、組織体の運営に価値を付加し、また改善することに役立つアシュアランス業務とコンサルティング業務の両方を実施するうえで、内部監査人が必要な知識、技能および能力を保有しているかどうかを確認し、内部監査部門全体として業務を遂行できるかどうかを評価することができる。</p>	<p>・価値を付加 ⇒内部監査部門が、客観的かつ適切なアシュアランスを提供し、ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロールの各プロセスの有効性と効率性に役立っているときに、内部監査部門は、組織体（およびその組織体の利害関係者）に価値を付加していると言える。</p> <p>c.f. 「基準1210—熟達した専門的能力—内部監査部門の能力」 ⇒内部監査人は、自らの職責を果たすために必要な「知識、技能およびその他の能力」を備えていなければならない。内部監査部門は、部門の責任を果たすために必要な「知識、技能およびその能力」を部門全体として備えているか、または備えるようにしなければならない。</p> <p><解釈指針> 熟達した専門的能力とは、内部監査人が自らの専門職としての責任を有効に遂行するために求められる「知識、技能およびその他の能力」のことをいう集合的な言葉である。適切な助言や改善のための提言を行うために必要な熟達した専門的能力には、現在の活動、トレンドおよび新しい課題に注意を払うことも含まれる。内部監査人は、適切な専門職資格や認定を得ることにより、熟達した専門的能力を証明することが奨励される。専門職的資格や認定とは、例えば、内部監査人協会（IIA）やその他の適切な専門職団体が提供する、公認内部監査人（CIA）の称号やその他の称号を指している。</p>	

② 内部監査基本規程

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	内部監査基本規程の目的を説明し、「基準」に従って、内部監査基本規程に必要な要素を識別する。 Describe the purpose of an internal audit charter; identify the required elements of an internal audit charter, according to the Standards.	内部監査人は、内部監査基本規程を策定する理由を明確に説明できる。また、基本規程に織り込む内容として「内部監査の専門的実施に関する基本原則」、「倫理綱要」、「基準」、および「内部監査の定義」についても明確に説明することができる。	・内部監査基本規程 ⇒内部監査部門の目的、権限および責任を明確にする正式な文書。組織体における内部監査部門の地位を確固たるものにし、取締役会に対する内部監査部門長の職務上の指示・報告関係の内容を示すとともに、内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の遂行に関連する、記録・人・物的財産へのアクセス権限を認め、内部監査の活動の範囲を明確にするための文書。 ・必要な要素 ⇒「内部監査の専門的実施の基本原則」、「倫理綱要」、「基準」および「内部監査の定義」	・「基準」
応用知識	「基準」に適合した内部監査基本規程を作成し、取締役会の承認を得る。 Prepare an internal audit charter in conformance with the Standards, and receive approval from the board.	内部監査部門の主旨は、「基準」に適合した、取締役会の承認を得られるレベルの内部監査基本規程を文書化することができる。		
専門家	「基準」へ適合し、国際的水準のパフォーマンスを推進するために、内部監査基本規程を評価し改訂する。 Evaluate and revise an internal audit charter to achieve conformance with the Standards and promote worldclass performance.	内部監査部門長は、「基準」に適合し、そのレベルを向上・維持するために内部監査基本規程を定期的に見直し、改定が必要な場合には、最高経営者および取締役会に改正案を提出し、承認を求めることができる。		

③ 組織上の独立性

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	内部監査部門の組織上の独立性の重要性を説明し、独立性に影響を与える要素を識別する。 Describe the importance of organizational independence of the internal audit activity; identify the elements that affect independence.	内部監査人は、内部監査部門が組織上で独立している事の重要性を説明でき、また、独立性を侵害する具体的要素を挙げることができる。	・内部監査部門の組織上の独立性 ⇒独立性の定義：公正不偏な仕方での内部監査の職責を果たすに当たり、内部監査部門の能力を脅かす状態が存在しないこと。 ・独立性に影響を与える要素 ⇒取締役会および最高経営者からの支援 ①内部監査部門の組織上の位置付け： 内部監査部門長の部門運営上最高経営責任者（CEO）に直属すること。 ②内部監査部門に関する監督者による監督/指示・報告経路： 内部監査部門長が、最高経営責任者および取締役会の2系統の指示・報告系統を持ち、直接かつ制約なくアクセス出来ること。 1) 最高経営責任者への部門運営上の報告 2) 取締役会への職務上の報告	・「基準」1100, 1110, 1112, 1130 ・IPPF [Practice Guides] (Independence and Objectivity)
応用知識	内部監査の独立性を侵害するあらゆる可能性とその影響を発見する。 Detect any potential impairments to internal audit independence and the impact.	内部監査部門の主旨は、内部監査の組織上の独立性が侵害されているかどうかを判断でき、また、侵害された際の影響範囲を明確にすることができる。	・独立性を侵害するあらゆる可能性とその影響 ⇒独立性侵害の例として、以下が考えられる。 - 内部監査部門長が内部監査以外の役割や職責を有する場合、内部監査部門の組織上の独立性または内部監査人個人の客観性を侵害する、または外観上侵害する可能性がある。 例) 内部監査部門長がコンプライアンスやリスク・マネジメントなどの活動に執行側の立場で関わる - 業務範囲の制限、記録・人・財産へのアクセスの制約および資金面などの監査資源の制約	
専門家	「基準」へ適合するために、内部監査の独立性を侵害するあらゆる可能性に対処し、残存するあらゆる侵害の影響を伝達する。 Address any potential impairments to internal audit independence to achieve conformance with the Standards; communicate the impact of any remaining impairments.	内部監査部門長は、内部監査の組織上の独立性が侵害される懸念がある状況に適切に対処し、「基準」に沿って、考えられる影響について（経営者等に）伝達することができる。	・侵害の影響を伝達 ⇒事実としてまたは外観として、内部監査の組織上の独立性または客観性が損なわれた場合には、その詳細を適切な関係者に開示しなければならない。	

④ 個人の客観性

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>内部監査の客観性の重要性を説明し、客観性を損なう可能性がある、または損なうと見なされる要因を識別する。</p> <p>Describe the importance of internal audit objectivity; identify factors that may impair, or appear to impair, objectivity.</p>	<p>内部監査人は、客観性を損なう可能性や、損なっていると見なされる要因を識別できると共に、内部監査の客観性の重要性について理解し、説明することができる。</p>	<p>・客観性の重要性 ⇒以下のような重要性 -客観性の確保、すなわち公正不偏の態度の保持 -内部監査人の専門職としての利害と個人としての利害の衝突の回避 -客観性を損なう可能性がある、または損なうと見なされる要因を識別する能力</p>	<p>・「基準」1120, 1130 ・IPPF「実施ガイド」(以下、「実施ガイド」)1120, 1130 ・IPPF「倫理綱要」(以下、「倫理綱要」)</p>
応用知識	<p>個々の内部監査人の客観性のあらゆる実際の侵害、または侵害と見なされる要因を発見して管理し、内部監査の客観性を評価して維持する。</p> <p>Detect and manage any real or perceived impairments to an individual internal auditor's objectivity; assess and maintain internal audit objectivity.</p>	<p>内部監査部門の主査は、各内部監査人の客観性が侵害される可能性がある要因を評価、対処して、内部監査の客観性を維持することができる。</p>	<p>・個々の内部監査人の客観性 ⇒自己の利害または他人からの不当な影響を受けない内部監査人の専門職としての客観性 ・(客観性の)あらゆる実際の侵害 ⇒個人的な利害の衝突、業務範囲の制限、記録・人・財産へのアクセスの制約および資金面などの監査資源の制約 ・(客観性の)侵害と見なされる要因 ⇒信頼を損ないかねない不適切な外観 例)コンプライアンスやリスク・マネジメントの活動といった内部監査以外の役割を有すること ・(侵害などを)発見して管理 ⇒内部監査部門長は、予定されているチーム・メンバーと任務の性質ならびに関係する個人および部門について話し合い、内部監査人の客観性を侵害する利害の衝突が存在するかどうか調査すること ・内部監査の客観性を評価して維持する ⇒潜在的な客観性の侵害を考慮し、利害の衝突のあるチーム・メンバーを避ける</p>	
専門家	<p>客観性を規定する方針を策定し、客観性を促進するための戦略を提言する。</p> <p>Develop and maintain policies that govern objectivity; recommend strategies to promote objectivity.</p>	<p>内部監査部門長は、客観性を規定する内部監査の方針、および客観性を促進するための戦略を策定することができる。</p>		

⑤ 倫理的行動

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>内部監査人にとっての倫理綱要の重要性を説明し、IIAの倫理綱要の原則を識別する。</p> <p>Describe the importance of a code of ethics for internal auditors; identify the principles of The IIA's Code of Ethics.</p>	<p>内部監査人は、IIAの「倫理綱要」4原則を識別し、その重要性について理解し、説明することができる。</p>	<p>・倫理綱要の原則 ⇒「倫理綱要」の規定する「誠実性」、「客観性」、「秘密の保持」、「専門的能力」の4原則のこと</p>	<p>・「倫理綱要」</p>
応用知識	<p>個人としてIIAの倫理綱要への適合を実証する。</p> <p>Demonstrate individual conformance with The IIA's Code of Ethics.</p>	<p>内部監査部門の主査は、IIAの「倫理綱要」4原則に適合した行動を執ることができる。</p>	<p>・倫理綱要への適合 ⇒「倫理綱要」の4原則に適合した行動を執ること</p>	
専門家	<p>内部監査部門がIIAの倫理綱要に適合しているかを評価し、内部監査人と内部監査部門のための最高の倫理基準を維持し推進する戦略を提言する。</p> <p>Assess the internal audit activity's conformance with The IIA's Code of Ethics; recommend strategies to maintain and promote the highest ethical standards for internal auditors and the internal audit activity.</p>	<p>内部監査部門長は、内部監査部門がIIAの「倫理綱要」に適合できているかどうかを評価し、内部監査人やその内部監査活動のための倫理基準を高い水準まで引き上げる、または維持するための対策を講じることができる。</p>		

⑥ 専門職としての正当な注意

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	専門職としての正当な注意を説明する。 Describe due professional care.	内部監査人は、内部監査に際し、内部監査の専門職として期待される注意と職務を遂行するのに求められる技能を正しく理解し、説明することができる。	・専門職としての正当な注意 ⇒内部監査人は、平均的にしてかつ十分な慎重さと能力を備える内部監査人に期待される注意を払い、技能を適用しなければならない。ただし、専門職としての正当な注意とは全く過失のないことを意味するものではない。	・「基準」1220
応用知識	専門職としての正当な注意を実証する。 Demonstrate due professional care.	内部監査部門の主旨は、内部監査の専門職として期待される注意を払い、職務を遂行するのに求められる技能を用いて内部監査業務を行うことができる。		
専門家	専門職としての正当な注意の適用について評価して結論付ける。 Evaluate and conclude on the application of due professional care.	内部監査部門長は、個々の内部監査について、内部監査の専門職として期待される注意を払い、職務を遂行するのに求められる技能を用いて内部監査業務が行われたかどうかを評価し、改善点も含めて結論付けることができる。		

⑦ 専門的能力の開発

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	内部監査部門の責任を果たすために必要な知識、スキル、および能力、ならびに継続的な専門的能力の開発の必要性を認識する。 Recognize the knowledge, skills and competencies needed to fulfill the responsibilities of the internal audit activity and the need for continuing professional development.	内部監査人は、内部監査人としての職責を果たすために必要な専門的能力と継続的にその能力を向上させる必要性を理解することができる。	・内部監査部門の責任を果たすための必要な知識、スキル、および能力 ⇒熟達した専門的能力とは、内部監査人が自らの専門職としての責任を有効に遂行するために求められる「知識、技能およびその他の能力」の集合的な言葉 ・継続的な専門的能力の開発 ⇒内部監査人は、継続的な専門的能力の開発を通じて、「知識、技能およびその他の能力」を高めなければならない	・「基準」1210, 1230
応用知識	継続的な専門的能力の開発を通じて、内部監査の能力を実証する。 Demonstrate internal audit competency through continuing professional development.	内部監査部門の主旨は、継続的に専門的能力を向上させ、その能力を内部監査活動において発揮することができる。		
専門家	内部監査部門の責任を果たすために必要な能力を評価し、専門的能力の開発を推進する。 Assess the competencies required to fulfill the responsibilities of the internal audit activity; promote professional development.	内部監査部門長は、内部監査部門の責任を果たすために必要な専門的能力が部門総体として備わっているかどうかを評価し、部門総体の専門的能力を必要な水準まで引き上げる、または維持するための対策を講じることができる。	・内部監査部門の責任を果たす ⇒内部監査部門は、部門の責任を果たすために必要な「知識、技能およびその他の能力」を、部門総体として備えているか、または備えるようにしなければならない。	

2. 実施領域

① 組織体のガバナンス

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	組織体のガバナンスの概念を説明する。 Describe the concept of organizational governance.	内部監査人は、ガバナンスの概念を理解している。	・ガバナンス ⇒取締役会が、組織体の目標達成に向けて、組織体の活動について、情報を提供し、指揮し、管理し、および監視するために、プロセスと組織構造を併用して実施すること	・「基準」用語一覧

応用知識	組織体のガバナンスの方針、プロセス、および構造に関連するリスクを発見する。 Detect risks related to the organization's governance policies, processes, and structures.	内部監査部門の主査は、組織体のガバナンス方針、手続、体制に関するリスクを発見することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンスの方針 ⇒組織および個人の業績を測定するために用いられる組織戦略、重要な活動の実施のための統治方針、明確で強制力のある責任と説明責任の体系など ・ガバナンス・プロセス ⇒ガバナンスの主要な構成要素 <ul style="list-style-type: none"> ①戦略的方向性 <ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネス・モデル 2) 全体目標 3) リスク選好を含む、リスク・テイクの方法 4) 組織行動の限界 ②監視 <ol style="list-style-type: none"> 1) 最高経営者およびリスク・オーナーによって実施されるリスク・マネジメント活動 2) 内部および外部によるアシュアランス活動 ・ガバナンス構造 ⇒会社の定款、社則、取締役会、内部監査部門、法律、規制、政府規制当局 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・[GLEIM CIA Review Seventeenth Edition Part3 日本語版] 日本内部監査協会 (第一章 ガバナンス) ・現在は絶版
専門家	組織体のガバナンスの方針、プロセス、および構造の改善を提案する。 Recommend improvements to the organization's governance policies, processes, and structures.	内部監査部門長は、組織体のガバナンス方針、手続、体制の改善に向けた提言をすることができる。		

② 不正

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	不正の種類、不正リスク、および不正の兆候を認識する。 Recognize types of fraud, fraud risk, and red flags for fraud.	内部監査人は、不正の種類、不正リスク、および不正の兆候を理解し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・不正 (の概念) ⇒不正とは、意図的な隠蔽行為を伴い、組織体に損害を与える行為の総称 c.f. 「不正のトライアングル」 ⇒不正が起こるのは、一般的に以下の3つの要素が揃うときと言われる。 <ul style="list-style-type: none"> ①機会：不正を行うことを可能にする「機会」が存在する。例) あるビジネスプロセスに統制が欠如している。 ②動機：不正を行う「動機」が存在する。例) 生活に困っている、経営者としての花道を飾りたい など ③正当化：不正を「正当化」出来る理由が存在する。例) 他の人もやっているから自分も少しくらいは…という意識が働く、自分の会社だから自分の判断が一番正しいと考える。 ・不正の種類 ⇒不正の分類 (カテゴリー) のこと。職業上の不正には主に以下の3つの分類がある。 <ul style="list-style-type: none"> ①資産の不正流用 (事例の86%) ※ 従業員が雇用組織の資源を盗むまたは濫用する資産不正流用のこと。 ②財務諸表不正 (事例の10%) 不正実行者が組織の財務諸表に意図的に重要な虚偽表示をしたり申告しなかったりすること。 ③汚職 (事例の43%) 賄賂、利害の衝突、強要などの違反行為を含むもの。 ※事例は重複するものがあるため合計100%にならない。 ・不正リスク ⇒不正について、「(発生) 可能性」および「(顕在化した場合の) 影響度」の2機軸で評価・可視化したもの。財務諸表監査の場合、不正による重要な虚偽表示のリスクのことをいう。 ・不正の兆候 ⇒不正の兆候とは、不正の発覚につながる可能性がある特徴のこと。行動面としては、①分不相応な生活、②経済的困窮、③業者/顧客と異常に親密、④統制上の問題、職務分掌を渡る、⑤怒りっぽい、疑り深い、保身的、⑥やり手だが不誠実、⑦離婚/家庭内に問題など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水島 正、衛藤秀三郎「内部監査基本テキスト 第4版」(P.102) 中央経済社、2020年 ・Association of Certified Fraud Examiners「2020 Report to the Nations」(P.9, 21)、2020年 ・企業会計審議会監査部会「監査基準の改訂及び監査における不正リスク対応基準の設定について」、平成25年3月13日 ・「基準」1210, 1220 ・情報処理推進機構「組織における内部不正防止ガイドライン 第5版」(P.61, 88, 91)、2022年
応用知識	不正の可能性と、組織体が不正リスクを検出して管理する方法を評価し、不正を防止し検出するためのコントロールを提案し、組織体の不正に対する認識を改善するための教育を行う。 Evaluate the potential for fraud and how the organization detects and manages fraud risks; recommend controls to prevent and detect fraud and educate to improve the organization's fraud awareness.	内部監査部門の主査は、不正の可能性と、組織体が不正リスクを検出して管理する方法を評価し、不正を防止し検出するためのコントロールを提案し、組織体の不正に対する認識を改善するための教育を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・不正の可能性 ⇒不正が顕在化する度合のこと。 ・組織体が不正リスクを検出して管理する方法 ⇒組織体の不正対策の有効性を確認するためのチェックリストなどのツール、手引き、通報源 など ・不正を防止し検出するためのコントロール ⇒不正防止と発見のための不正対策の実施 ・組織体の不正に対する認識を改善 ⇒組織の不正対策意識を向上させること。具体的には、全従業員に対して、ホットラインと通報制度など、不正の申立てへの対応と上層部に上げる手段を周知・徹底するなど。 	

<p>専門家</p>	<p>不正の防止、抑止、および調査に、フォレンジック監査技法を利用する。 Apply forensic auditing techniques in fraud prevention, deterrence, and investigation.</p>	<p>内部監査部門長は、不正の防止、抑止、および調査に、フォレンジック監査技法を適用することができる。</p>	<p>・不正の防止 ⇒不正の発生を防ぐための対策 ①犯行を難しくする（やりにくくする）：対策を強化することで犯罪行為を難しくする。 ②捕まるリスクを高める（やると見つかる）：管理や監視を強化することで捕まるリスクを高める。 ③犯行の見返りを減らす（割に合わない）：標的を隠す/排除する、利益を得にくくすることで犯行を防ぐ。 ④犯行の誘因を減らす（その気にさせない）：犯罪を行う気持ちにさせないことで犯行を抑止する。 ⑤犯罪の弁明をさせない（言い訳させない）：犯罪者による自らの行為の正当化理由を排除する。 ・不正の抑止 ⇒顕在化した不正の早期発見、事後対策 ①組織としての基本対策 ②不正行為の種類別対策 ③不正行為の兆候の把握や早期発見のための対策 ④内部不正が発生した際の対策 ・フォレンジック監査技法 ⇒コンピュータやネットワークの不正使用やサービス妨害などの行為や、法的紛争・訴訟に対し、電磁的記録の証拠保全および調査・分析を行うとともに、電磁的記録の改ざん・毀損などについての分析・情報収集などを行う一連の科学的調査手法・技術のこと。</p>	
------------	---	---	--	--

③ リスク・マネジメント

能力レベル	原和訳 原文	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
<p>一般的認識</p>	<p>リスクとリスク・マネジメントの基本的な概念を説明し、リスク・マネジメント・フレームワークを説明する。 Describe fundamental concepts of risk and risk management; describe risk management frameworks.</p>	<p>内部監査人は、リスクとリスク・マネジメントの基本的な概念や、リスク・マネジメント・フレームワークの概要について理解して、説明できる。</p>	<p>・リスク ⇒目標の達成に影響を与える事象発生の可能性。リスクは影響の大きさと発生可能性とに基づいて測定される。 ・リスク・マネジメント ⇒内部監査部門は、リスク・マネジメント・プロセスの有効性を評価し、リスク・マネジメント・プロセスの改善に貢献しなければならない。（「基準」2120-リスク・マネジメント） リスク・マネジメント・プロセスとは、以下のような内容と考えられる。 ①リスク・マネジメント・プロセスの役割分担：内部監査は支援しても責任は負わない ②リスク・マネジメント・プロセスの整備状況 ③リスク・マネジメント・プロセスの運用状況：事象識別、リスク分析・評価、リスクの管理（管理方針決定）、リスクのコントロール、定期的なリスク評価・環境変化への対応 ④不正リスクマネジメントの評価 ⑤改善のための提言のあり方 ・リスク・マネジメント・フレームワーク ⇒組織が価値を創造し、維持し、および実現する過程において、リスクを管理するために依拠する、戦略策定、並びにパフォーマンスと統合されたカルチャー、能力、実務（COSO ERMの定義） cf. -COSO ERMの5つのカテゴリー（基本要素）：①ガバナンスとカルチャー ②戦略と目標設定 ③パフォーマンス ④レビューと修正 ⑤情報、伝達および報告 -ISO31000（リスクマネジメントに関する国際規格）の枠組み：①指令およびコミットメント、②リスクマネジメントのための枠組み設計（Plan）、③リスクマネジメントの実践（Do）、④枠組とモニタリングとレビュー（Check）、⑤枠組の継続的改善（Act）</p>	<p>・「基準」2120、 ・水島 正、衛藤秀三郎「内部監査基本テキスト 第4版」（P.78）中央経済社、2020年 ・日本内部監査協会「GLEIM CIA Review Seventeenth Edition Part3 日本語版」（P.40）*現在は絶版 ・COSO-ERM（2017） ・日本内部監査協会「実務指針」（6.2 リスクマネジメント）、2017年</p>
<p>応用知識</p>	<p>リスク・マネジメント・フレームワークを使って潜在的脅威を識別し、プロセスと機能内のリスク・マネジメントの有効性を検証する。 Use a risk management framework to identify potential threats; examine the effectiveness of risk management within processes and functions.</p>	<p>内部監査部門の主旨は、リスク・マネジメント・フレームワークを使って潜在的脅威を識別し、プロセスと機能の中で適用されているリスク・マネジメントの有効性を検証することができる。</p>	<p>・潜在的脅威を識別 ⇒ c.f. 実務指針 6.2 リスク・マネジメント 6.2.1 (1) 内部監査部門は、以下の視点から、組織体のガバナンス・プロセス、業務の実施および情報システムに関するリスク・エクスポージャーを評価しなければならない。 ①組織体の全般的または部門目標の達成状況 ②財務および業務に関する情報の信頼性とインテグリティ ③業務の有効性と効率性 ④資産の保全 ⑤法令、方針、定められた手続および契約の遵守</p>	
<p>専門家</p>	<p>リスクの識別と管理の有効性を評価するために用いている方法を評価する。 Appraise the methods used to assess the effectiveness of risk identification and management.</p>	<p>内部監査部門長は、リスクの識別と管理の有効性を査定するために使用されている方法について、評価することができる。</p>	<p>・リスクの識別と管理 ⇒ c.f. 実務指針 6.2 リスク・マネジメント 6.2.1 内部監査部門は以下を評価しなければならない。 (2) 組織体のリスクの受容水準に沿った適切な対応が選択されているか (3) 内部監査部門は、識別されたリスクの情報が適時に組織体の必要と認められる箇所に伝達されているか (4) 内部監査部門は、組織体が不正リスクをいかに識別し、適切に対応しているか</p>	

④ 内部統制

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	コントロールの種類を識別する。 Identify types of controls.	内部監査人は、コントロール（統制）の種類を切り分けて説明することができる。	・コントロール（統制） ⇒監査対象組織、取締役会およびその他の者が、リスクを管理するために、また、設定した目標やゴールが達成される可能性を高めるために行うすべての措置。 ・（コントロールの）種類 ⇒コントロール（統制）の形態、方法、適用範囲などの類別 ①予防的・防止的：事前に、不正やエラーが発生するのを抑止。費用対効果が高い。 ②発見的：事後的に、発生した不正やエラーを適時に発見する。通常「予防」より費用がかかる。 ③指揮的・指令的：望ましい事象を発生させるべく指揮・指令する。	・「基準」用語一覧 ・水島 正、衛藤秀三郎「内部監査基本テキスト 第4版」(P.87) 中央経済社、2020年 ・八田進二・箱田順哉 監訳、日本内部統制研究会・新COSO研究会 訳「COSO内部統制の統合的フレームワーク」2013年5月公表
応用知識	内部統制フレームワークを使って内部統制の有効性を検証する。 Use an internal control framework to examine the effectiveness and efficiency of internal controls.	内部監査部門の主旨は、内部統制の有効性と効率性を検証するため、内部統制フレームワークを適用することができる。	・内部統制フレームワーク ⇒1992年、トレッドウェイ委員会支援組織委員会（COSO：the Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission）が策定、2013年に改訂し公表した、内部統制の設計、適用および運用ならびに内部統制の有効性の評価に関する先導的な枠組み。 ・内部統制の有効性 ⇒組織体の内部統制の整備され、企図したとおりに運用されていること	
専門家	組織体の内部統制フレームワークを改善するために評価と提案を行い、組織体の内部統制フレームワークの実施状況を評価する。 Evaluate and recommend improvements to the organization's internal control framework; assess the organization's implementation of ITs internal control framework.	内部監査部門長は、組織体の内部統制フレームワークを改善するために評価と提言を行い、組織体のIT統制フレームワークの実装状況についても評価することができる。	・組織体の内部統制フレームワーク ⇒組織体における、内部統制の設計、適用および運用ならびに内部統制の有効性の評価に関する枠組み。	

⑤ 内部監査業務の計画（目標と範囲）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	個々の監査業務の目標、評価基準、および範囲の設定に関する主な役割と活動を説明する。 Describe the key roles and activities involved in establishing the objectives, evaluation criteria, and scope of an engagement.	内部監査人は、個々の監査業務の目標、評価基準、および範囲の設定に関する主な役割と活動を理解し、監査対象組織の経営管理者またはその他の主要な担当者に説明することができる。	・監査業務の目標（の設定） ⇒内部監査人が内部監査の個々の業務で達成したい概略、実施する理由を定めること ・監査業務の評価基準（の設定） ⇒ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロール手段を評価するための妥当な基準を定めること。例えば、内部の基準（例：組織体の方針や手続き）、外部の基準（例：当局による法令や規制）、先進的な実務の基準（例：業界や専門職のガイダンス）など ・監査業務の範囲の設定 ⇒内部監査人が個々の業務において目標を達成するのに十分な範囲。何を含めて何を含まないのか（例：領域またはプロセスの境界、範囲内の場所と範囲外の場所 など）について説明出来ること。 ・主な役割と活動 ⇒レビュー対象の領域またはプロセスに関連して主要なリスクを識別する役割と、個々の業務の目標、評価基準、範囲において内部監査活動を行うこと	・「基準」2200, 2210, 2220, 用語一覧
応用知識	個々の監査業務の目標、評価基準、および範囲を決定する。 Determine the objectives, evaluation criteria, and scope of an engagement.	内部監査部門の主旨は、個々の監査業務の目標、評価基準および範囲を決定することができる。	・監査業務の目標 ⇒①アシュアランス業務： レビュー対象に関する事前のリスク評価結果を反映し、重大な誤謬、不正、コンプライアンス違反およびその他のエクスポージャーの可能性を考慮した目標を設定すること ②コンサルティング業務： 依頼者と合意した範囲内において、ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロールの各プロセスを取り上げ、組織体の価値、戦略および目標に適合していること ・監査業務の評価基準 ⇒①アシュアランス業務： ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロール手段を評価するための妥当な基準を定めること。例えば、内部の基準（例：組織体の方針や手続き）、外部の基準（例：当局による法令や規制）、先進的な実務の基準（例：業界や専門職のガイダンス） ②コンサルティング業務： 依頼者と合意した範囲内において、依頼された内容に最大限応え、依頼者に満足を提供できること。 ・監査業務の範囲 ⇒①アシュアランス業務： 個々のアシュアランス業務の範囲には、第三者の管理下にあるものを含め、関連するシステム・記録・人・物的財産を考慮すること ②コンサルティング業務： 個々のコンサルティング業務の実施に当たって、設定された個々の業務の範囲が合意された目標に取り組むのに十分であることを確実にすること	

専門家	個々の監査業務の目標と範囲を評価して、監査業務の品質を確保する。 Evaluate the audit engagement's objectives and scope to ensure the quality of the engagement.	内部監査部門長は、監査業務の品質を確保するため、個々の監査業務の目標と範囲について評価することができる。	
-----	---	--	--

⑥ 内部監査業務の計画（リスク評価）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	個々の監査業務の計画中にリスク評価を行う目的と、リスク評価の手順を説明する。 Describe the purpose of performing a risk assessment during engagement planning and the steps involved.	内部監査人は、個々の監査業務の計画を策定する際にリスク評価を行う目的と、リスク評価の手順について、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク評価を行う目的 ⇒個々の監査の業務における目標を設定するために、リスク評価を行う。なぜなら、個々の業務における目標は、レビュー対象領域におけるリスクと関連するからである。リスク・ベースの目標が設定されれば、個々の業務の範囲を決めることができ、内部監査人が仕事を行う領域が画定される。 ・リスク評価の手順 ⇒①情報収集 リスク評価に関する経営管理者の意見、および来たるべき個々の業務の領域におけるあらゆる関連するリスクおよびコントロール手段を理解しておく。例えば、以下の情報をレビューする。 <ul style="list-style-type: none"> -経営管理者が行ったあらゆる最近のリスク評価 -年次計画の策定時に行った内部監査によるリスク評価 -レビュー対象領域についてのこれまでの個々の業務におけるリスク評価および監査報告 -他の内部または外部のアシュアランス・プロバイダの行った仕事の結果 -レビューの対象の領域またはプロセスでの以前行われた監査の結果 ②リスクの識別 -リスクとコントロールのマトリクスを策定する、または既存のマトリクスをレビューする。マトリクスを用いて、目標、資源および運営の全部またはそのいずれかに影響を与える可能性があるリスクを識別する。 -新しいプロセスまたは状況によって新しいリスクがもたらされた可能性があるかどうかを判断する。 ③リスクの評価 -リスクがガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロールの各プロセスを通じて、受容可能なレベルに管理されているかどうか、そのプロセスの妥当性・有効性を評価（査定する・見積もる）する。 -レッドウエイ委員会支援組織委員会のフレームワークまたはISO31000といった、適切なフレームワークまたはモデルを使用することを検討する。 -優先順位は、リスクの発生可能性、および仮に発生した場合に当該組織体を与えるであろうリスクの影響度によって判断する。 	・「基準」2201, 2200
応用知識	主要リスクとコントロールの優先順位付けを含めた詳細なリスク評価を完了する。 Complete a detailed risk assessment, including prioritizing key risks and controls.	内部監査部門の主旨は、主要なリスクや実施されているコントロールを整理し、重要なリスクの大きさを評価し、優先順位付けを決定することができる。		
専門家	個々の監査業務中のリスク評価プロセスを評価する。 Evaluate the risk assessment process during the audit engagement.	内部監査部門長は、個々の監査業務における「リスク評価」およびそのプロセスが妥当であったかを評価することができる。		

⑦ 内部監査業務の計画（作業プログラム）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	個々の監査業務の作業プログラムの目的と、作業プログラムの主な要素を説明する。 Describe the purpose of an engagement work program and key components.	内部監査人は、個々の監査業務における作業プログラムの目的および作業プログラムの主な構成要素について、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業プログラム ⇒作業プログラムとは、内部監査の個々のアシュアランス業務およびコンサルティング業務で実施すべき具体的な手続きを列挙した文書であって、個々の業務の計画を達成すべく設計されたもの。個々の業務の目標および範囲に基づいて作成される。 ・作業プログラムの目的 ⇒個々の業務のチーム全員が、何を必要とするのか、およびどの仕事やり残されているのかを確実に把握するために作成する。 ・作業プログラムの主な要素 ⇒個々の業務の範囲、検証の際のサンプルの大きさおよび使用する手法、個々の業務の目標を達成する方法、監査資源、計画策定段階における判断および結論、完了済みの仕事の記録、管理者による承認の記録 	・「基準」2240, 用語一覧

応用知識	個々の監査業務の作業プログラムを作成する。 Prepare an engagement work program.	内部監査部門の主査は、個々の監査業務の作業プログラムを作成することができる。	・作業プログラムを作成 ⇒①アシュアランス業務： 作業プログラムには、個々のアシュアランス業務の実施過程で得た情報を識別、分析、評価および文書化するための手続きを含める。 内部監査人は、作業プログラムを作成する際、レビュー対象の領域またはプロセスのリスクを考慮する。次の2つのことを行うのに必要な検証は何か、監査ステップをどうするか決定する。 1) レビュー対象の領域またはプロセスにおけるリスクを評価する 2) 既存のコントロール手段を検証すること ②コンサルティング業務： コンサルティング業務の内容によって形式・内容が異なることがある。
専門家	個々の監査業務の作業プログラムを評価する。 Assess the audit engagement work program.	内部監査部門長は、個々の監査業務における作業プログラムが、その目的を達成するように作られているか評価することができる。	

⑧ 内部監査業務の計画（資源）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	個々の監査業務の人員配置と資源配分の計画に影響を与える要素を説明する。 Describe the factors that influence planning for staffing and resource planning for an engagement.	個々の監査業務では、監査目標を達成するのに適切かつ十分な人員配置と資源配分計画が求められるが、内部監査人は、その計画立案に影響する要素について理解し、説明することができる。	・人員配置と資源配分の計画 ⇒監査の目標を達成するのに適切かつ十分な監査チームの人的リソース計画のこと。監査チームが"専門職としての正当な注意"を払い、当該監査を遂行するのに必要な知識、技能およびその他の能力を全体として保有し、必要な要員数で構成された計画 ・影響を与える要素 ⇒当該監査に関連する組織体の戦略、目標およびリスクのこと。例えば以下が考えられる。 ①監査業務の内容や複雑さの評価（対象業務の内容、コントロール手段） ②時間の制約（監査スケジュール） ③利用可能な資源（監査要員、要員補充・コースなどのための予算）	・「基準」2200, 2230
応用知識	個々の監査業務の人員配置と資源配分を決定する。 Determine staff and resources for an engagement.	内部監査部門の主査は、個々の監査業務の人員配置と資源配分計画に影響を与える要素を勘案の上、当該監査に投入する資源を決定することができる。		
専門家	個々の監査業務の人員配置と資源配分を評価する。 Evaluate audit engagement staffing and resource.	内部監査部門長は、個々の監査業務の人員配置と資源配分計画に影響を与える要素を勘案の上、当該監査に投入する資源が監査目標に照らして適切かつ十分かどうかを評価することができる。		

⑨ 内部監査業務の実施（情報収集）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	監査対象領域の事前サーベイ、チェックリスト、およびリスク・コントロールの質問書の目的を説明する。 Describe the purpose of preliminary surveys of the engagement area, checklists, and risk-and control questionnaires.	内部監査人は、監査対象領域の事前サーベイ、チェックリストによる確認、リスク・コントロールに関連する情報収集のための質問書の目的を説明することができる。	・監査対象領域 ⇒監査対象になる可能性があるすべてのリスク領域 ・（監査対象領域の）事前サーベイ ⇒監査対象領域のガバナンス、リスク・マネジメント、コントロールに関連する情報を収集するための事前調査（予備調査） ・（監査対象領域の）チェックリスト ⇒監査対象領域のガバナンス、リスク・マネジメント、コントロールに関連する情報を収集するためのチェックリスト ・（監査対象領域の）リスク・コントロールの質問書 ⇒監査対象領域のリスク・マネジメント、コントロールに関連する情報を収集するために監査対象組織に回答を求める質問書 ・目的 ⇒個々の業務に対する計画策定にあたり、組織体の戦略、目標、およびリスクを勘案するために、監査対象領域に関する事前調査、チェックリスト、およびリスク・コントロールに関する質問を行うこと	・「基準」2100, 2110, 2120, 2130, 2200, 2201

応用知識	監査対象領域の事前サーベイを実施し、チェックリストとリスク・コントロールの質問書を作成し、監査期間中に関連情報を検証する。 Perform a preliminary survey of the engagement area; develop checklists and risk-and-control questionnaires; examine relevant information during an engagement.	内部監査部門の主査は、監査対象領域の事前サーベイ、チェックリストによる確認、リスク・コントロールに関連する情報収集のための質問書を作成し、監査期間中に関連情報を検証することができる。	
専門家	監査情報の収集活動を評価する。 Evaluate engagement information gathering activities.	内部監査部門長は、監査対象領域のガバナンス、リスク・マネジメント、コントロールに関連する情報の収集活動を評価することができる。	

⑩ 内部監査業務の実施（サンプリング）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献																																								
	原文																																											
一般的認識	様々なサンプリング手法と、それらの利点と欠点を説明する。 Describe the various approaches to sampling, including advantages and drawbacks of each.	内部監査人は、様々なサンプリング手法と、それぞれの利点と欠点を説明することができる。	<p>・様々なサンプリング手法 ⇒監査の対象となる母集団全体について推論を導く目的のために、ある母集団の中から100%未満の項目に対して監査手続きを適用することを「監査サンプリング」といい、母集団の数やそこに含まれている誤りの推定数などからサンプル数を統計学的に算出し決定する「統計的サンプリング」と無作為に抽出する「非統計サンプリング」がある。</p> <p>・利点と欠点 ⇒監査手続きにおいてサンプリング手続きを選択することの利点は、母集団全件を検証せずに評価出来ること、欠点はサンプリングリスクがあること。各サンプリング手法別の利点・欠点は下表のとおり</p> <table border="1"> <caption>※監査サンプリングの2つの一般的なアプローチ</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>手法</th> <th>目的</th> <th>特性</th> <th>利点</th> <th>欠点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">統計的サンプリング</td> <td>属性サンプリング</td> <td rowspan="4">コントロールのテスト</td> <td>発生頻度に関する母集団を推論し、特定のコントロールの有効性を評価する。 ①信頼水準、②許容逸脱率、③予想逸脱率等によりサンプル数を決定。</td> <td>定量的な算出で、説得力に優れる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>階層化された属性サンプリング</td> <td>属性サンプリングのバリエーションの一つで、分割が可能な母集団からのサンプリング。</td> <td>母集団の差異の影響を減らすことによりサンプル数を減らせる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ストップ・オア・ゴー・サンプリング</td> <td>属性サンプリングのバリエーションの一つで、逸脱率が低いと予想される場合に最も適切な方法。</td> <td>特定のレベルのサンプリング・リスクにおいて必要なサンプル・サイズを最小限に抑えることができる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発見サンプリング</td> <td>属性サンプリングのバリエーションの一つで、サンプルは、母集団の逸脱率が特定の値以上であれば、少なくとも1つの逸脱を検出するのに十分な大きさに設計される。</td> <td>予想逸脱率は低いが、逸脱があると極めて深刻な場合に利用され、少なくとも一つの逸脱を発見するようにサンプル数を決定する。</td> <td>母集団全体に意見を表明するのではなく、特徴をもったサンプルを少なくとも一つ発見することをめざすもの。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>金額比例確率（PPS）サンプリング</td> <td rowspan="2">金額価値のテスト</td> <td>属性サンプリングを修正した手法であり、発生率ではなく金額で結論を得るために使用される。</td> <td>記録された金額の過大計上に関するテストで用いられ、特に母集団の中で、個々の過大計上数が少ないと予想される場合に用いられる。系統抽出アプローチを使用する。</td> <td>推定虚偽記載の数が増加すると、適切なサンプルサイズは急速に増加する。</td> </tr> <tr> <td>古典的変数サンプリング</td> <td>正規分布理論に基づく統計的サンプリング手法。</td> <td>虚偽記載があっても、より小さなサンプル・サイズで、目標を達成できる。</td> <td>PPSサンプリングより適用が困難。適切なサンプル・サイズを決定し、サンプル結果を評価する際に、複雑な計算を必要とする。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>非統計的サンプリング</td> <td></td> <td>母集団を代表すると予想されるサンプルを抽出するために使用する、無作為の抽出技法。</td> <td></td> <td>サンプリング・リスクを統計的に定量化できない。</td> </tr> </tbody> </table>		手法	目的	特性	利点	欠点	統計的サンプリング	属性サンプリング	コントロールのテスト	発生頻度に関する母集団を推論し、特定のコントロールの有効性を評価する。 ①信頼水準、②許容逸脱率、③予想逸脱率等によりサンプル数を決定。	定量的な算出で、説得力に優れる。		階層化された属性サンプリング	属性サンプリングのバリエーションの一つで、分割が可能な母集団からのサンプリング。	母集団の差異の影響を減らすことによりサンプル数を減らせる。		ストップ・オア・ゴー・サンプリング	属性サンプリングのバリエーションの一つで、逸脱率が低いと予想される場合に最も適切な方法。	特定のレベルのサンプリング・リスクにおいて必要なサンプル・サイズを最小限に抑えることができる。		発見サンプリング	属性サンプリングのバリエーションの一つで、サンプルは、母集団の逸脱率が特定の値以上であれば、少なくとも1つの逸脱を検出するのに十分な大きさに設計される。	予想逸脱率は低いが、逸脱があると極めて深刻な場合に利用され、少なくとも一つの逸脱を発見するようにサンプル数を決定する。	母集団全体に意見を表明するのではなく、特徴をもったサンプルを少なくとも一つ発見することをめざすもの。		金額比例確率（PPS）サンプリング	金額価値のテスト	属性サンプリングを修正した手法であり、発生率ではなく金額で結論を得るために使用される。	記録された金額の過大計上に関するテストで用いられ、特に母集団の中で、個々の過大計上数が少ないと予想される場合に用いられる。系統抽出アプローチを使用する。	推定虚偽記載の数が増加すると、適切なサンプルサイズは急速に増加する。	古典的変数サンプリング	正規分布理論に基づく統計的サンプリング手法。	虚偽記載があっても、より小さなサンプル・サイズで、目標を達成できる。	PPSサンプリングより適用が困難。適切なサンプル・サイズを決定し、サンプル結果を評価する際に、複雑な計算を必要とする。		非統計的サンプリング		母集団を代表すると予想されるサンプルを抽出するために使用する、無作為の抽出技法。		サンプリング・リスクを統計的に定量化できない。	<p>・「基準」2320 ・日本内部監査協会「内部監査アシュアランス業務とアドバイザリー業務 第4版」（第11章）、2021年</p>
	手法	目的	特性	利点	欠点																																							
統計的サンプリング	属性サンプリング	コントロールのテスト	発生頻度に関する母集団を推論し、特定のコントロールの有効性を評価する。 ①信頼水準、②許容逸脱率、③予想逸脱率等によりサンプル数を決定。	定量的な算出で、説得力に優れる。																																								
	階層化された属性サンプリング		属性サンプリングのバリエーションの一つで、分割が可能な母集団からのサンプリング。	母集団の差異の影響を減らすことによりサンプル数を減らせる。																																								
	ストップ・オア・ゴー・サンプリング		属性サンプリングのバリエーションの一つで、逸脱率が低いと予想される場合に最も適切な方法。	特定のレベルのサンプリング・リスクにおいて必要なサンプル・サイズを最小限に抑えることができる。																																								
	発見サンプリング		属性サンプリングのバリエーションの一つで、サンプルは、母集団の逸脱率が特定の値以上であれば、少なくとも1つの逸脱を検出するのに十分な大きさに設計される。	予想逸脱率は低いが、逸脱があると極めて深刻な場合に利用され、少なくとも一つの逸脱を発見するようにサンプル数を決定する。	母集団全体に意見を表明するのではなく、特徴をもったサンプルを少なくとも一つ発見することをめざすもの。																																							
	金額比例確率（PPS）サンプリング	金額価値のテスト	属性サンプリングを修正した手法であり、発生率ではなく金額で結論を得るために使用される。	記録された金額の過大計上に関するテストで用いられ、特に母集団の中で、個々の過大計上数が少ないと予想される場合に用いられる。系統抽出アプローチを使用する。	推定虚偽記載の数が増加すると、適切なサンプルサイズは急速に増加する。																																							
	古典的変数サンプリング		正規分布理論に基づく統計的サンプリング手法。	虚偽記載があっても、より小さなサンプル・サイズで、目標を達成できる。	PPSサンプリングより適用が困難。適切なサンプル・サイズを決定し、サンプル結果を評価する際に、複雑な計算を必要とする。																																							
	非統計的サンプリング		母集団を代表すると予想されるサンプルを抽出するために使用する、無作為の抽出技法。		サンプリング・リスクを統計的に定量化できない。																																							
応用知識	適切なサンプリング手法を適用する。 Apply appropriate sampling techniques.	内部監査部門の主査は、適切なサンプリング手法を適用することができる。	<p>・適切なサンプリング手法を適用 ⇒内部監査人は、抽出したサンプルが、結果を導き出す対象の母集団全体および期間全体、またはそのいずれかを確実に代表するような方法を適用する責任があるため、その責任に基づきサンプリング手法を適切に適用すること</p>																																									
専門家	監査業務のサンプリング活動について評価する。 Evaluate audit engagement sampling activities.	内部監査部門長は、監査業務のサンプリング活動について評価することができる。	<p>・サンプリング活動 ⇒サンプリング手法の選定・内容・サンプリングに対する監査結果など</p>																																									

⑪ 内部監査業務の実施（コンピュータ支援監査技法）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>コンピュータ支援監査技法を利用する目的、利点、および欠点を説明する。 Describe the purpose, advantages, and disadvantages of using computer-assisted audit tools and techniques.</p>	<p>内部監査人は、監査手続きにおいてCAATsを利用する目的、利用した場合のメリット、デメリットを説明することができる。</p>	<p>・コンピュータ支援監査技法（CAATs：Computer Assisted Audit Techniques） ⇒①定義：コンピュータを活用し、データを分析することにより監査手続きを行う技法。「CAATs」と略され、「キヤッツ」、「カーツ」、「キヤーツ」などと発音される。 ②種類（技法）：1）組込監査モジュール法、2）直接アクセス法、3）データダウンロード技法などがあり、ツールとしてはExcelなどの一般用ソフトウェア、BI（ビジネス・インテリジェンス）などの分析ツール、汎用監査ツールなどのCAATs専用ツールがある。 ③特徴：1）コンピュータによる正確な分析、2）（紙ではなく）データベースを対象にした分析、3）サンプリングではなく網羅的な分析。 ・目的、利点 ⇒①監査手続きの高度化（全件検証などにより有効性が向上、監査手続きの効率化および客観性確保と再現性の向上、網羅的分析による不在の証明） ②内部監査対象範囲の拡大（往査困難な組織でもデータ入手により監査可能）、 ③異常取引検出時の事後対応コストの削減（異常値の早期検出による早期対応） ・欠点 ⇒①CAATsに必要なIT知識・技能が必要 ②分析に必要なデータの入手あるいはデータの整備が必要 ③分析に必要なプログラムの準備やツールが必要</p>	<p>・IPPF「実施ガイダンス」（以下、「実施ガイダンス」）2320 ・「基準」用語一覧 ・あずさ監査法人編「図解CAAT実践入門—データ分析による内部監査の高度化—」、2015年1月</p>
応用知識	<p>コンピュータ支援監査技法を適用する。 Use computer-assisted audit tools and techniques.</p>	<p>内部監査部門の主旨は、監査手続きにおいてCAATsを適用することができる。</p>		
専門家	<p>コンピュータ支援監査技法の利用について評価する。 Evaluate the use of computer-assisted audit tools and techniques.</p>	<p>内部監査部門長は、監査手続きで利用されたCAATsの有効性・効率性などを評価することができる。</p>		

⑫ 内部監査業務の実施（データ・アナリティクス）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>内部監査におけるデータ・アナリティクス、アナリティクス・プロセス、およびデータ・アナリティクス手法の適用について説明する。 Describe data analytics, the data analytics process, and the application of data analytics methods in internal auditing.</p>	<p>内部監査人は、内部監査で利用するデータ・アナリティクス（データ分析）とは何か、また、データを取得・正規化し、データ分析して結果を伝達するといったアナリティクス・プロセスおよび内部監査の目的に応じて、どのようなデータ・アナリティクス手法を活用するかを説明することができる。</p>	<p>・データ・アナリティクス ⇒データを収集、分析し、その結果を用いて、客観的な事実に基づく意思決定を行うプロセス ・アナリティクス・プロセス ⇒内部監査のデータ・アナリティクスのプロセスは、「1.質問を定義する、2.データを取得する、3.データを整理する、4.データを分析し結果を理解する、5.結果を伝達する」。 ・データ・アナリティクス手法 ⇒例として、「比率、趨勢および回帰分析、合理性の検証、各期の比較、予測、情報を、類似の業界または組織体とベンチマークすること」「データマイニング、予測分析、テキストマイニング、機械学習」などがある</p>	<p>・日本内部監査協会「内部監査アシュアランス業務とアドバイザリー業務 第4版」（第11章）、2021年 ・「基準」1220 ・「実施ガイダンス」2320 ・talend「ビジネスアナリティクスとデータアナリティクスの違い 役割・責任の比較（https://www.talend.com/jp/resources/business-analytics-vs-data-analytics/）</p>
応用知識	<p>データ・アナリティクス手法を適用する。 Apply data analytics methods.</p>	<p>内部監査部門の主旨は、内部監査の目的に応じたデータ・アナリティクス手法を活用することができる。</p>		<p>・竹中紳治・野中拳海「デジタルカルチャー醸成に本当に役に立つ、ある取り組み」【PwC's View】vol.29、2020年（https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/pwcs-view/assets/pdf/202011.pdf）</p>
専門家	<p>内部監査におけるデータ・アナリティクスの利用について評価する。 Evaluate the use of data analytics in internal auditing.</p>	<p>内部監査部門長は、内部監査でデータ・アナリティクスを利用することが、有効であるかどうかを評価することができる。</p>		<p>・Alteryx「データアナリティクス」（https://www.alteryx.com/ja/glossary/data-analytics）</p>

⑬ 内部監査業務の実施（証拠）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	証拠の潜在的な情報源を認識する。 Recognize potential sources of evidence.	内部監査人は、監査証拠となり得る情報源の種類を理解して説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・証拠 ⇒監査証拠とは、内部監査人が、状況を観察し、人々へ質問し、記録の調査をして取得し、分析・検証し、監査の発見事項、改善提案の根拠となる情報。 ・情報源 ⇒次のようなものがある。 ①外部証拠：外部で発生し監査人によって直接受け取られたもので最も証明力があるもの。 ②外部-内部証拠：第三者によって外部的に発生したものであるが、被監査人によって処理され管理されているもの。 ③内部-外部証拠：被監査人によって内部的に発生したものであるが、外部の者によって処理されたもの。 ④内部証拠：被監査人によって内部的に発生したもので、最も証明力が弱いもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水島 正、衛藤秀三郎「内部監査基本テキスト 第4版」中央経済社、2020年 ・「基準」2310
応用知識	証拠の潜在的な情報源の関連性、十分性、および信頼性を評価する。 Evaluate the relevance, sufficiency, and reliability of potential sources of evidence.	内部監査部門の主旨は、監査証拠となり得る情報源の関連性、十分性および信頼性を評価することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・関連性 ⇒関連する情報とは、個々の業務の発見事項や改善のための提言の基礎となるものであり、個々の業務の目標と合致するもの。 ・十分性 ⇒十分な情報とは、思慮深い知識のある者であれば当該内部監査人と同じ結論に達するような、事実に基づいた、妥当で、かつ納得のいくもの。 ・信頼性 ⇒信頼出来る情報とは、個々の業務に関する適切な技法の使用により入手可能な最善の情報。 	
専門家	証拠の関連性、十分性、および信頼性を確保するためのガイドラインを策定する。 Develop guideline to ensure evidence is relevant, sufficient, and reliable.	内部監査部門長は、監査証拠の関連性、十分性および信頼性を明確化するための組織内ガイドライン（指針）を策定することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン ⇒社内指針のこと 	

⑭ 内部監査業務の実施（プロセスマッピング）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	様々なプロセスマッピング手法の目的、利点、および欠点を説明する。 Describe the purpose, advantages, and disadvantages of various process mapping techniques.	内部監査人は、様々なプロセスマッピング手法の目的、利点、および欠点について、理解し説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセスマッピング手法 ⇒プロセスやワークフローなどを視覚的に図示する手法であり、コントロールの文書化手法の一つ。 ※業務フローチャートのようなイメージか ・プロセスマッピング手法の目的 ⇒コアとなるビジネスプロセスに関する共通の理解を得るため。 ・プロセスマッピング手法の利点 ⇒主要なプロセスに焦点をあてることが出来る。 ・プロセスマッピング手法の欠点 ⇒部分的な問題に焦点が当たることもあり、そうした場合は俯瞰的な視点が欠如する。 ※IPPF「実施ガイド—2300 内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の実施」では、「計画の策定過程で行われた仕事は、通常、監査調査に文書化され、作業プログラムの中で参考にされる。ここでの仕事には、次の各事項を含む場合がある。コントロール・プロセスに関する、プロセス・マップ、フローチャートおよび説明書きの全部またはそのいずれか。（一部抜粋）」とあり、内部監査業務の実施においては、コントロール・プロセスに関するプロセス・マップ、フローチャートなどを作成する。 監査対象領域に存在する様々なプロセスは、多くの場合、単独で存在するのではなく、複数のプロセスが相互に関連していることから、内部監査業務の実施に際しては、そうした複数のプロセスを可視化することにより、監査対象領域の様々なプロセスを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基準」2300
応用知識	適切な分析方法とプロセスマッピング手法を適用する。 Apply appropriate analytical approaches and process mapping techniques.	内部監査部門の主旨は、適切な分析方法とプロセスマッピング手法を適用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な分析方法 ⇒フローチャート、コントロールチャート（管理図）、コントロールに関する質問書などのコントロールの文書化手法。 ・プロセスマッピング手法 ⇒プロセスやワークフローなどを視覚的に図示するコントロールの文書化手法。 ※内部監査業務の実施に際しては、コントロールの適切な分析方法とプロセスマッピング手法を適用することが必要となる。 	
専門家	監査業務で行ったプロセスマッピングを評価する。 Evaluate process mapping of the audit engagement.	内部監査部門長は、監査業務で行ったプロセスマッピングを評価することができる。		

⑮ 内部監査業務の実施（分析的レビュー）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献																		
	原文																					
一般的認識	様々な分析的レビュー手法の目的、利点、および欠点を説明する。 Describe the purpose, advantages, and disadvantages of various analytical review techniques.	内部監査人は、様々な分析レビュー手法の目的、利点、および欠点を理解し説明することができる。	<p>・分析的レビュー手法の目的 ⇒分析的レビューには様々な手法があるが、会計監査における一例としては、財務データ相互間または財務データと非財務データとの間に存在すると推定される関係を分析・検討することによって、財務情報を評価することである。</p> <p>・分析的レビュー手法の利点、欠点 ⇒手法によって様々な利点、欠点があるが、比率分析を例とすると、比率によって分析を行うことで効率性や有効性を確認出来る。一方で、実数比較でないため直感的に把握しづらいといった欠点がある。</p> <p>※「基準2320—分析および評価」では、「内部監査人は、適切な分析と評価に基づいて、結論および内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の結果を得るようにならなければならない。」とあり、内部監査業務の実施においては分析的レビュー手法が必要となる。</p>	<p>・「基準」2320</p> <p>・「実施ガイド」2320</p> <p>・日本公認会計士協会「監査基準委員会報告書520 分析的手続 Ⅰ 本報告書の範囲及び目的 3. 定義」</p>																		
応用知識	分析的レビュー手法を判断して適用する。 Determine and apply analytical review techniques.	内部監査部門の主旨は、分析的レビュー手法を決定して適用することができる。	<p>・分析的レビュー手法 ⇒「基準 2320 — 分析および評価」では、分析的手続の例として以下が紹介されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> -比率、趨勢および回帰分析 -合理性の検証 -各期の比較 -予測 -情報を、類似の業界または組織体とベンチマーキングすること <p>※「基準2320—分析および評価」において「内部監査人は、適切な分析と評価に基づいて、(以下省略)」とある通り、内部監査人は個々の内部監査業務に適合する分析的レビュー手法を決定して適用することが必要となる。</p> <table border="1"> <tr> <td>実数分析</td> <td>財務諸表の実際の数値（金額）を用いて分析を行う方法</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(例) 売上・利益増減分析、キャッシュフロー分析</td> </tr> <tr> <td>利点</td> <td>直観的にわかりやすく「量」の分析に適している</td> </tr> <tr> <td>欠点</td> <td>一方、「質」については把握することができない</td> </tr> <tr> <td>比率分析</td> <td>財務諸表のさまざまな数値（金額）の比率を求めて分析を行う方法</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(例) ROA、売上高利益率、流動比率、売上債権回転期間</td> </tr> <tr> <td>利点</td> <td>実数分析では把握できない「質」の分析に適している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>比率によって分析を行うことで、効率性や有効性を確認できる</td> </tr> <tr> <td>欠点</td> <td>実数比較でないため、直感的に把握しづらい</td> </tr> </table>	実数分析	財務諸表の実際の数値（金額）を用いて分析を行う方法		(例) 売上・利益増減分析、キャッシュフロー分析	利点	直観的にわかりやすく「量」の分析に適している	欠点	一方、「質」については把握することができない	比率分析	財務諸表のさまざまな数値（金額）の比率を求めて分析を行う方法		(例) ROA、売上高利益率、流動比率、売上債権回転期間	利点	実数分析では把握できない「質」の分析に適している		比率によって分析を行うことで、効率性や有効性を確認できる	欠点	実数比較でないため、直感的に把握しづらい	
実数分析	財務諸表の実際の数値（金額）を用いて分析を行う方法																					
	(例) 売上・利益増減分析、キャッシュフロー分析																					
利点	直観的にわかりやすく「量」の分析に適している																					
欠点	一方、「質」については把握することができない																					
比率分析	財務諸表のさまざまな数値（金額）の比率を求めて分析を行う方法																					
	(例) ROA、売上高利益率、流動比率、売上債権回転期間																					
利点	実数分析では把握できない「質」の分析に適している																					
	比率によって分析を行うことで、効率性や有効性を確認できる																					
欠点	実数比較でないため、直感的に把握しづらい																					
専門家	監査業務中に実施した分析的レビュー手法を評価する。 Evaluate analytical review techniques implemented during the audit engagement.	内部監査部門長は、監査業務中に実施した分析レビュー手法を評価することができる。																				

⑯ 内部監査業務の実施（文書化）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	文書化と監査調査の要件を説明する。 Describe documentation and workpaper requirements.	内部監査人は、監査調査を含む文書化の要件を理解し説明することができる。	<p>・文書化 ⇒「基準」では、部監査業務における文書化について以下のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「基準2240—内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の作業プログラム」 「内部監査人は、内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の目標を達成するための作業プログラムを作成し、文書化しなければならない。」 - 「基準2300—内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の実施」 「内部監査人は、内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の目標を達成するため、十分な情報を、識別、分析、評価および文書化しなければならない。」 - 「基準2330—情報の文書化」 「内部監査人は、内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の結果および結論を裏付ける、十分な、信頼出来る、関連する、かつ有用な情報を文書化しなければならない。」 <p>・監査調査 ⇒通常読者が個々の業務の結論の根拠を理解できるように、個々の業務に関する分析、結果および結論について、十分な情報を文書化したもの。</p> <p>cf. 「実施ガイド2320—分析および評価」—「基準に適合していることを示すに当たって考慮すべき事項」</p>	<p>・「基準」2240, 2330, 2330</p>
応用知識	監査調査と文書を作成する。 Prepare workpapers and documentation.	内部監査部門の主旨は、監査調査を含む、内部監査の関連文書を作成することができる。	<p>・文書を作成 ⇒内部監査業務における文書化について、「基準2330—情報の文書化」に記載のある通り、「内部監査の個々の業務の結果および結論を裏付ける、十分な、信頼出来る、関連する、かつ有用な情報」の文書化が必要となる。</p>	
専門家	監査業務の文書を評価する。 Evaluate audit engagement documentation.	内部監査部門長は、個々の内部監査業務の関連文書を評価することができる。	<p>・文章を評価 ⇒内部監査業務における文書の作成に際しては、「内部監査の個々の業務の結果および結論を裏付ける、十分な、信頼出来る、関連する、かつ有用な情報」を文書化し、当該文書の適否を評価することが必要となる。</p>	

⑰ 内部監査業務の結果（伝達の品質）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	監査の伝達の品質の要素を説明する。 Describe the elements of quality engagement communications.	内部監査人は、監査結果（監査により発見された課題など）を経営者や監査対象組織に伝える際、伝達の品質に必要な要素は何か、また、各要素の意味を正しく理解し、説明することができる。	・伝達の品質の要素 ⇒伝達の品質の必要要素として、「基準2420—伝達の品質」には「伝達は正確、客観的、明確、簡潔、建設的、完全かつ適時なものでなければならない。」と規定されている。 ※各要素の内容については「基準2420」の解釈指針で解説されている。 -客観的：公正不偏なものであり、すべての関連する事実と状況についての公正でバランスのとれた評価の結果 -正確：誤りや歪曲がなく、基礎となる事実と忠実なもの -明確：容易に理解でき、論理的で、不必要な専門用語を排除し、すべての重要性が高くかつ関連する情報を提供するもの -簡潔：要領を得たもので、不必要に綿密、詳細、冗長でなく、言い回しがくどくないもの -建設的：内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の依頼者や、組織体に役立つもので、必要な場合には改善をもたらすもの -完全：対象の読者にとって非常に重要な事柄を欠くことなく、改善のための提言と結論を裏付けるすべての重要性が高くかつ関連する情報と発見事項を含むもの -適時：時宜を得たかつ目的にかなうものであって、課題の重大性に応じて、経営管理者が適切な改善措置をとることが出来るようにするもの	・「基準」2420
応用知識	監査対象者への暫定的な伝達を含む、監査の伝達の品質を実証する。 Demonstrate quality engagement communications, including preliminary communication with engagement clients.	内部監査部門の主旨は、伝達の品質に必要な要素を充足して、監査結果（暫定的な場合を含む）を経営者や監査対象組織に伝えることができる。		
専門家	監査の伝達を評価する。 Evaluate audit engagement communications.	内部監査部門長は、伝達される内容が、監査の伝達の品質に必要な要素をどの程度充足しているかを評価することができる。		

⑱ 内部監査業務の結果（結論）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	適切な監査の結論の要素を認識する。 Recognize the elements of an appropriate engagement conclusion.	内部監査人は、監査の結論を適切に導くための要素を正しく理解し、説明することができる。	・適切な監査の結論の要素 ⇒「基準 2300—内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の実施」では、次の通りに規定されている。 ①「基準2300—内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の実施」 「内部監査人は、内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の目標を達成するため、十分な情報を、識別、分析、評価および文書化しなければならない。」 ②「基準2310—情報の識別」 「内部監査人は、内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の目標を達成するため、十分な、信頼出来る、関連する、かつ有用な情報を識別しなければならない。」 ※各情報の内容については「基準2310」の解釈指針で解説されている。 -「十分な」情報：思慮深い知識のある者であれば当該内部監査人と同じ結論に達するような、事実に基づいた、妥当で、かつ納得のいくもの -「信頼出来る」情報：個々の業務に関する適切な技法の使用により入手可能な最善の情報 -「関連する」情報：個々の業務の発見事項や改善のための提言の基礎となるものであり、個々の業務の目標と合致するもの -「有用な」情報：組織体がゴールに到達するのを助けるもの ③「基準2320—分析および評価」 「内部監査人は、適切な分析と評価に基づいて、結論および内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の結果を得るようにしなければならない。」	・「基準」2300, 2310, 2320, 2330
応用知識	監査の結論を要約して作成する。 Summarize and develop engagement conclusions.	内部監査部門の主旨は、監査の結論について、要点を取り纏めて文書化できる。		
専門家	監査の結論を評価する。 Evaluate audit engagement conclusions.	内部監査部門長は、監査の結論が適切に導かれているかどうかを評価することができる。		

⑱ 内部監査業務の結果（改善のための提言）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	改善のための提言を示すことの重要性を認識する。 Recognize the importance of providing recommendations.	内部監査人は、組織体の改善のために提言を示すことの重要性を理解し、説明することができる。	・改善のための提言を示すことの重要性 ⇒以下のIPPFの概念にも関わりがあると考えられる。 ①内部監査の使命 「内部監査の使命は、リスク・ベースで客観的な、アシュアランス、助言および洞察を提供することにより、組織体の価値を高め、保全することである。」 ②内部監査の基本的実施の基本原則 「9. 洞察力に優れ、先見性があり、未来志向であること」 「10. 組織体の改善を促進すること」 ③内部監査の定義 「内部監査は、組織体の運営に関し価値を付加し、また改善するために行われる、独立にして、客観的なアシュアランスおよびコンサルティング活動である。内部監査は、組織体の目標の達成に役立つことにある。このためにリスク・マネジメント、コントロールおよびガバナンスの各プロセスの有効性の評価、改善を、内部監査の専門職として規律ある姿勢で体系的な手法をもって行う。」	・「使命」 ・IPPF「内部監査の基本的実施の基本原則」(以下、「基本原則」) ・「定義」 ・「基準」2410 ・「実施ガイド」1310, 1311
応用知識	組織体の価値を高め保全するための、改善のための提言を策定する。 Formulate recommendations to enhance and protect organizational value.	内部監査部門の主旨は、組織体の価値を高め保全するための改善提言を策定することができる。	・組織体の価値を高め保全するための、改善のための提言 ⇒以下の「基準」にも関わりがあると考えられる。 「基準2410—伝達の規準 2410.A1」 「個々のアシュアランス業務の結果の最終的伝達には、適切な結論を含めなければならない。適切な場合には、改善のための提言および改善措置の計画、またはそのいずれかをも含めなければならない。また、適切な場合には、内部監査人の意見が提供されるべきである。意見を表明する場合には、最高経営者、取締役会およびその他の利害関係者が何を期待しているかを考慮に入れなければならない。また十分な、信頼出来る、関連する、かつ有用な情報に基づかなければならない。」	
専門家	監査の改善のための提言を評価する。 Evaluate audit engagement recommendations.	内部監査部門長は、策定・提示した提言の有効性を評価することができる。	・提言を評価 ⇒対象部門による受け入れ状況や満足度、実施の効果、利害関係者からのフィードバックなどにより、その有効性を評価する。 ※「実施ガイド1310 (QA&IP)」 「品質のアシュアランスと改善のプログラムは、…継続的に測定し分析することも含む。… (3) 改善のための提言の受け入れ状況、(4) 監査対象部署の満足度」 「実施ガイド1311 (内部評価)」 「継続的モニタリングによく使われる…次の事項が含まれる。内部監査対象部署およびその他の利害関係者からの…有効性に関するフィードバック」	

⑳ 内部監査業務の結果（報告）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	中間報告、終了会議、経営管理者の回答の入手、報告書承認プロセス、報告書の配付を含む、監査の伝達と報告プロセスを説明する。 Describe the engagement communication and reporting process, including interim reporting, the exit conference, obtaining management's response, the report approval process, and distribution of the report.	内部監査人は、中間報告、終了会議、監査対象組織の回答の入手、報告書承認プロセス、報告書の配付を含む、監査の伝達と報告プロセスについて、正しく理解し、説明することができる。	・中間報告 ⇒内部監査の実施過程でなされる報告。関係者へ即座の情報伝達が必要な場合、実施中の監査範囲を変更する場合、延長され長期に及ぶ監査で進捗を最高経営責任者に伝える場合などに実施される。 ・終了会議 ⇒監査対象組織に内部監査の最終結果を伝達し、課題と改善の方向性について話し合いをするミーティング (例: Exit Meeting) ・回答 ⇒内部監査部門から伝達された改善提言に対する改善措置計画 ・報告書承認プロセス ⇒内部監査の最終結果 (監査報告書) を伝達する前に、内部監査部門長など、所定の者によるレビューを経て承認するプロセス ・報告書の配付 ⇒内部監査の最終結果 (監査報告書) を組織体内外の適切な者に提出すること ・監査の伝達と報告プロセス ⇒個々の内部監査の目標、範囲、結果 (仮の結果および最終結果) を伝達するプロセス。結果には、発見事項、結論、意見、改善のための提言および改善措置の計画が含まれる。	・「基準」2410, 2440 ・「実施ガイダンス」2410, 2440 ・内部監査人協会 (IIA)、日本内部監査協会事務局 訳「IIAの3ラインモデル—3つのディフェンスラインの改訂」【月刊監査研究】2020年8月号
応用知識	中間報告書を作成し、最終監査報告書を作成し、承認を求め、適切な関係者に配付する。 Prepare an interim report; prepare a final audit report, seek approval, and distribute to appropriate parties.	内部監査部門の主旨は、中間報告書、および最終監査報告書を作成し、所定の者による承認を得て、適切な関係者に配付することができる。	・中間報告書 ⇒内部監査の実施過程で作成される報告書 ・最終監査報告書 ⇒内部監査の最終段階で作成される報告書 ・適切な関係者 ⇒アシュアランス業務の結果を十分に考慮することが確実に出来る関係者。配布に際して、監査結果を受け取るビジネス上の責任のある者、改善措置計画に管理責任のある者、個々の業務の結果に対処出来る者であることなどを考慮する。 また、最高経営責任者および取締役会を期待に応えて配付先に加えてもよい。	

専門家	監査報告書をレビューして承認し、適切な関係者への配付を提言する。 Review and approve engagement reports; recommend distribution of the report to appropriate parties.	内部監査部門長は、監査報告書をレビューして承認し、適切な関係者に配布するよう求めることができる。	
-----	---	--	--

⑳ 内部監査業務の結果（残余リスクとリスクの受容）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	残余リスクの識別と評価に関する内部監査部門長の責任と、経営管理者のリスクの受容を伝達するプロセスを説明する。 Describe the chief audit executive's responsibility for identifying and assessing the residual risk and the process for communicating management's acceptance of risk.	内部監査人は、残余リスクの識別と評価に関する内部監査部門長の責任および監査対象組織のリスクの受容について伝達するプロセスを説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・残余リスク ⇒経営者が、不利な事象の影響と発生の可能性を軽減する措置（リスクに対応する統制活動を含む）を講じた後にさらに残るリスク ・内部監査部門長の責任と、経営管理者のリスクの受容を伝達するプロセス ⇒以下のようなプロセスと考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> -残余リスクを識別してその大きさを評価 -監査対象組織がリスクを受容する場合の問題について最高経営者と協議 -受容された残余リスクにより、依然問題が解決されていないと判断した場合にそのことを取締役会に報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内部監査協会「CCSA資格認定スタディガイド」（ドメインV：リスクの識別および評価）*現在は絶版 ・「実施ガイド」2600 ・COSO-ERM（2017）
応用知識	残余リスクを識別する。 Identify residual risk.	内部監査部門の主査は、残余リスクを識別することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・残余リスクを識別 ⇒以下のようなことと考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> -内部統制の有効性を評価し、残余リスクを識別して、そのことを示すこと。 -内部監査結果への対応状況および関連する改善措置をモニターするなどして、高リスクの発見事項がタイムリーに是正されているか、または当該組織が通常受容するよりも大きなリスクはないかなどの観点から、残余リスクを識別する。 	
専門家	残余リスクの影響を評価し、経営管理者のリスクの受容を最高経営者と取締役会に伝達する。 Assess the impact of residual risk; communicate management's acceptance of risk to senior management and the board.	内部監査部門長は、残余リスクの影響を評価し、監査対象組織によるリスクの受容について最高経営者と取締役会に伝達することができる。		

㉑ 内部監査業務の結果（経営管理者の改善措置計画）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	監査結果について説明し、経営管理者の改善措置計画の目的を説明する。 Describe engagement outcomes; describe the purpose of a management action plan.	内部監査人は、監査結果および監査結果に対する監査対象組織の改善措置計画の目的を説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・改善措置計画の目的 ⇒新しいリスクおよび十分に低減されていないリスクについての適切なリスク対応（例：受容、追求、移転、低減または回避）やコントロール上の課題への対応など、経営管理者が行う改善措置計画の目的 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基準」2120, 2130 ・「実施ガイド」2120, 2130
応用知識	経営管理者の改善措置計画を含む、監査結果を評価する。 Assess engagement outcomes, including the management action plan.	内部監査部門の主査は、監査対象組織による改善措置計画を含めて監査結果を評価することができる。		
専門家	内部監査部門が実施した監査業務の総合的結果を評価する。 Evaluate the collective outcomes of engagements performed by the internal audit activity.	内部監査部門長は、内部監査部門が実施した監査業務の総合的な成果を評価することができる。		

②③ 内部監査業務の結果（結果のモニタリング）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	経営管理者と取締役会に伝達された監査結果の解決策のモニタリングとフォローアップの重要性を認識する。 Recognize the importance of monitoring and follow-up on the disposition of audit engagement results communicated to management and the board.	内部監査人は、監査対象組織と取締役会に伝達された監査結果の解決策に対するモニタリングとフォローアップの重要性について説明することができる。	・監査結果の解決策のモニタリングとフォローアップ ⇒「基準 2500—進捗状況のモニタリング」では、次の通りに規定されている。尚、「経営管理者」は「監査対象組織」と読み替えられると考えられる。 「内部監査部門長は、経営管理者へ伝達された内部監査（アシュアランスおよびコンサルティング）の個々の業務の結果について、その対応状況をモニターする仕組みを確立し、維持しなければならない。」 「内部監査部門長は、経営管理者による改善措置が有効に実施されていることをモニターし確実にするフォローアップ・プロセス、または改善措置をとらないことによるリスクを監査対象組織が許容していることをモニターするフォローアップ・プロセスを構築しなければならない。」 「内部監査部門は、個々のコンサルティング業務の結果への対応状況を、依頼者と合意した範囲で、モニターしなければならない。」	・「基準」2500 ・「実施ガイド」2500
応用知識	経営管理者と取締役会に伝達された監査結果の解決策のモニタリングとフォローアップを管理する。 Manage monitoring and follow-up of the disposition of audit engagement results communicated to management and the board.	内部監査部門の主旨は、監査対象組織と取締役会に伝達された監査結果への解決策のモニタリングとフォローアップを管理することができる。	・モニタリングとフォローアップを管理 ⇒内部監査部門長にとって、関連する発見事項、合意した改善措置、および最新の状況を把握するプロセスを作ることが重要である。未完了の発見事項に関して、追跡、把握すべき情報には、通常、次の事項が含まれる。 - 監査対象組織に伝達した発見事項とそのリスク評価 - 合意した改善措置の内容 - 改善措置の時期/期日/経過期間、および目標期日の変更 - 各改善措置について責任のある監査対象組織/改善責任者 - 改善措置の最新の状況、および内部監査部門が状況を確認したかどうか	
専門家	内部監査部門が実施したモニタリングとフォローアップを評価する。 Evaluate monitoring and follow-up performed by the internal audit activity.	内部監査部門長は、内部監査部門が実施したモニタリングとフォローアップを評価することができる。		

3. 環境

① 組織体の戦略計画と管理（構造）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	組織構造の違いによるリスクとコントロールの影響を識別する。 Identify the risk and control implications of different organizational structures.	内部監査人は、組織構造の違いによるリスクとコントロールへの影響を特定して説明することができる。	・組織構造 ⇒公式組織構造の例：職能（機能）別組織構造、事業部制組織構造、マトリックス組織 など	・「基準」2110, 用語一覧 ・IIA [Sawyer's Internal Auditing], 2019年
応用知識	(①組織体のガバナンス構造)と(②組織構造や文化が全般的な統制環境とリスク・マネジメント戦略に与える影響)を評価することができる。 Evaluate (①the organization's governance structure) and (② the impact of organizational structure and culture/ on the overall control environment and risk management strategy).	内部監査部門の主旨は、組織体のガバナンス構造、ならびに、組織構造や文化が全般的な統制環境とリスク・マネジメント戦略に与える影響を評価することができる。	・ガバナンス構造 ⇒「取締役会が、組織体の目標達成に向けて組織体の活動について、情報を提供し、指揮し、管理し、および監視するために。プロセスと組織構造を併用して実施する」ための組織の態勢・構造 ・ガバナンス ⇒内部監査部門は、次の事項に係る組織体のガバナンス・プロセスを評価し、ガバナンス・プロセスの改善のための適切な助言をしなければならない。 - 戦略的意思決定および業務上の意思決定 - リスク・マネジメントおよびコントロールの監督 - 組織体における適切な倫理観と価値観の向上 - 組織体の有効な業績管理とアカウンタビリティの確保 - リスクとコントロールに関する情報の、組織体の適切な部署への伝達 - 取締役会、外部監査人、内部監査人、他のアシュアランス提供者および監査対象組織の活動の連携と、これらの者の間での情報の伝達 ・統制環境 ⇒組織の気風を決定し、組織を構成する人々の統制に対する意識に影響を与える環境。内部統制の他のすべての構成要素の基礎をなすとともに、規律と構造を提供する。統制環境に関する要因には、事業体に属する人々の誠実性・倫理的価値観・能力、経営者の哲学・行動様式、権限と責任を従業員に割り当て、人的資源を開発するために経営者が採用した方法、および取締役会が与えた注意と命令といった要因が含まれる。統制環境は、事業体の活動を組み立て、事業体の目標を設定し、そしてリスクを評価する際の方法に広範な影響を及ぼす。	

専門家	全般的な統制環境とリスク・マネジメント戦略の改善を提言する。 Recommend improvements to the overall control environment and risk management strategy.	内部監査部門長は、(組織体のガバナンス構造、組織構造、文化などを踏まえたうえで)全般的な統制環境とリスク・マネジメント戦略の改善を提言することができる。	
-----	---	--	--

② 組織体の戦略計画と管理 (戦略計画プロセス)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	戦略計画プロセスを説明する。 Describe the strategic planning process.	内部監査人は、組織体の戦略計画プロセスを説明することができる。		
応用知識	組織体の戦略計画プロセスを分析する。 Analyze the organization's strategic planning process.	内部監査部門の主旨は、組織体の戦略計画のプロセスを適切な手法で分析することができる。		
専門家	組織体の戦略計画プロセスの改善を提言する。 Recommend improvements to the organization's strategic planning process.	内部監査部門長は、組織体の戦略計画のプロセスの改善を提言することができる。		

③ 組織体の戦略計画と管理 (業績指標)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	一般的な業績指標を説明する。 Describe common performance measures.	内部監査人は、一般的な業績指標を説明することができる。		
応用知識	組織体が使用する業績指標を検証する。 Examine performance measures used by the organization.	内部監査部門の主旨は、組織体が使用する業績指標を検証することができる。		
専門家	適切な業績指標を選択する。 Select appropriate performance measures.	内部監査部門長は、当該監査で使用する適切な業績指標を選択することができる。		

④ 組織体の戦略計画と管理 (組織行動)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	組織行動と業績管理手法を説明する。 Explain organizational behavior and performance management techniques.	内部監査人は、組織行動と業績管理手法について説明することができる。		
応用知識	既存の組織行動と業績管理手法を検証する。 Examine existing organizational behavior and performance management techniques.	内部監査部門の主旨は、現状の組織行動と業績管理手法について検証することができる。		
専門家	適切な組織行動と業績管理手法を提言する。 Recommend appropriate organizational behavior and performance management techniques.	内部監査部門長は、適切な組織行動と業績管理手法について提言することができる。		

⑤ 組織体の戦略計画と管理（リーダーシップ）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	組織コミットメントをリードし構築するための、経営管理者の有効性について説明する。 Describe management's effectiveness to lead and build organizational commitment.	内部監査人は、経営陣/監査対象組織が組織への帰属意識を高めることの有効性を理解し、説明することができる。		
応用知識	組織コミットメントをリードし構築するための、経営管理者の有効性を検証する。 Examine management's effectiveness to lead and build organizational commitment.	内部監査部門の主旨は、経営陣/監査対象組織が組織への帰属意識を高めることの有効性を検証することができる。		
専門家	経営管理者が組織コミットメントをリードし構築する方法を改善するための措置を提言する。 Recommend actions to improve management's approach to leading and building organizational commitment.	内部監査部門長は、経営陣/監査対象組織が組織への帰属意識を高める取り組みを改善するための措置について提言することができる。		

⑥ 一般的な業務プロセス

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	一般的な業務プロセス（人事、購買、契約、商品開発、プロジェクト管理、販売、マーケティング、物流、外注プロセスの管理など）がリスクとコントロールに与える影響を説明する。 Describe the risk and control implications of common business processes (human resources, procurement, contracting, product development, project management, sales, marketing, logistics, management of outsourced processes, etc.).	内部監査人は、一般的な業務プロセス（人事、購買、契約、商品開発、プロジェクト管理、販売、マーケティング、物流、外部委託管理など）に含まれるリスクと統制の意味合いについて説明することができる。	・リスクとコントロール ⇒内部監査部門は、リスク・マネジメント・プロセスの有効性を評価し、リスク・マネジメント・プロセスの改善に貢献しなければならない。リスク・マネジメント・プロセスが有効であるか否かの判断は、内部監査人の以下の項目の評価に基づく。 ①組織体の目標が、組織体の使命を支援し、かつその使命に適合しているかどうか ②重大なリスクが識別され評価されているかどうか ③適切なリスク対応が選択され、諸リスクを組織体のリスク選好に沿ったものになっているかどうか ④関連するリスクの情報が適時に組織全体として捕捉かつ伝達され、組織体の職員、監査対象組織および取締役会が職責を果たすことが出来るようになっているかどうか	・「基準」2120
応用知識	組織体の業務プロセスに関連するリスクとコントロールを検証する。 Examine the risks and controls related to the organization's business processes.	内部監査部門の主旨は、組織の業務プロセスに関連するリスクと統制を検証することができる。		
専門家	組織体の業務プロセスに関連するリスクに対処するための措置を提言する。 Recommend actions to address risks related to the organization's business processes.	内部監査部門長は、組織体の業務プロセスに関連するリスクに対処するための措置を提言することができる。		

⑦ 社会的責任と持続可能性

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	企業の社会的責任と持続可能性について説明する。 Describe corporate social responsibility and sustainability.	内部監査人は、企業の社会的責任と持続可能性について説明することができる。		
応用知識	社会的責任と持続可能性に対する組織体の取り組み方を検証する。 Examine the organization's approach to social responsibility and sustainability.	内部監査部門の主旨は、組織の社会的責任と持続可能性に対する取り組み方を検証することができる。		
専門家	社会的責任と持続可能性に対する組織体の取り組み方を改善する措置を提言する。 Recommend actions to improve the organization's approach to soCIAL responsibility and sustainability.	内部監査部門長は、組織の社会的責任と持続可能性に対する取り組みを改善するための措置を提言することができる。		

⑧ 情報技術（データ・アナリティクス）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	ITとデータ・アナリティクスの基本概念を説明する。 Describe the basic concepts of IT and data analytics.	内部監査人は、情報技術（IT）とデータアナリティクスに関する基本概念について、説明することができる。	・データ・アナリティクス ⇒ある目的に基づいて統計や数学、機械学習などの分析手法によって分析した大量のデータから、役に立つ未知の知見やパターンを導き出す技術のこと	
応用知識	データ・アナリティクスとITを監査に適用する。 Apply data analytics and IT in auditing.	内部監査部門の主旨は、データアナリティクスとITを内部監査業務に適用することができる。		
専門家	監査におけるデータ・アナリティクスとITの利用を評価する。 Evaluate the use of data analytics and IT in auditing.	内部監査部門長は、内部監査業務におけるデータアナリティクスとIT利用の有効性を判定することができる。		

⑨ 情報技術（セキュリティとプライバシー）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	IT、情報セキュリティ、およびデータ・プライバシーに関連する様々なリスクを説明する。 Describe the various risks related to IT, information security, and data privacy.	内部監査人は、IT、情報セキュリティ、および機密データの取り扱いに関連する様々なリスクについて説明することができる。	・情報セキュリティ ⇒情報セキュリティの三要素（機密性・完全性・可用性の維持） ・データ・プライバシー ⇒機密データの取扱い	
応用知識	IT、情報セキュリティ、およびデータ・プライバシーに関連する様々なリスクを識別して評価する。 Identify and assess various risks related to IT, information security, and data privacy.	内部監査部門の主旨は、IT、情報セキュリティ、および機密データの取り扱いに関連する様々なリスクを識別して評価することができる。		
専門家	ITリスク、情報セキュリティ、およびデータ・プライバシーに対処するための措置を提言する。 Recommend actions to address IT risks, information security, and data privacy.	内部監査部門長は、ITリスク、情報セキュリティ、および機密データの取り扱いに関連する様々なリスクへの対応策について提言することができる。		

⑩ 情報技術（ITコントロール・フレームワーク）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	ITコントロール・フレームワークと基本的なITコントロールの目的と適用方法を認識する。 Recognize the purpose and applications of IT control frameworks and basic IT controls.	内部監査人は、ITコントロール・フレームワークとは何か、基本的なITコントロールおよびその目的、適用方法とはどのようなものかを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ITコントロール ⇒情報および情報サービスに対するアシュアランスを提供し、組織体の技術利用に伴うリスクを低減することに寄与するプロセスを包含したもの。（IT監査の国際的ガイダンス） ⇒ITのコントロール手段：アプリケーション、情報、インフラストラクチャーおよび人といった、ITの基盤にかかわる全般的および技術的なコントロールを提供するだけでなく、経営管理やガバナンスを支援するコントロール手段。（IPPF） ・基本的なITコントロール ⇒コントロールはリスク低減が最善の選択肢である場合に適用される。根本的なITの予防措置レベルを提供するために必要な一連の基本的各コントロール。全てのITインフラに最も広範に適用可能なITコントロールは、ベースライン・コントロールと呼ばれる。 以下は、適切な一連のベースライン・コントロールを選定する際に考慮出来る。 -ITコントロールを含むIT方針 -ITおよびITコントロールの責任定義、割当 -ITインフラの論理的および物理的確保 -アクセスおよび認証のコントロール・メカニズム -ウイルス対策ソフト脆弱性評価やリスクの識別他（IT監査の国際的ガイダンス） ・目的 ⇒リスク低減のための根本的なITの予防措置レベルを提供すること（IT監査の国際的ガイダンス） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基準」用語一覧 ・IIA「Global Technology Audit Guide」(IT監査の国際的ガイダンス) ・IIA「Information Technology Control (ITコントロール)」 ・日本ITガバナンス協会用語集「Cobit4.1 (日本語版)」
応用知識	ITコントロール・フレームワークを適用する。 Apply IT control frameworks.	内部監査部門の主旨は、ITコントロールを評価するに際し、ITコントロール・フレームワークを利用することができる。		
専門家	ITコントロール・フレームワークの利用を評価する。 Evaluate the use of IT control frameworks.	内部監査部門長は、ITコントロールを評価するに際し、ITコントロール・フレームワークを適切に適用していたかどうかを判定することができる。		

⑪ 会計と財務

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	財務会計と管理会計の様々な概念と基本原則を識別する。 Identify various financial and managerial accounting concepts and underlying principles.	内部監査人は、財務会計と管理会計の様々な概念と基本原則を理解し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計と管理会計の様々な概念や基本原則 ⇒例えば、以下のような「IFRSの概念フレームワーク」がその一例として挙げられる。 -財務報告の目的：一般目的財務報告の目的は、現在のおよび潜在的な投資者、融資者、その他の債権者が企業への資源提供に関する意思決定を行う際に有用な財務情報を提供することである。 -有用な財務情報の質的特性：財務情報が有用であるためには、Relevance (目的適合性) と Faithful representation (忠実な表現) の2つを基本的特性として備えていなければならない。また、以下4つの補強的質的特性 (enhancing qualitative characteristics) がある。 Compatibility (比較可能性)、Verifiability (検証可能性) Timeliness (適時性)、Understandability (理解可能性) -Going Concern (継続企業)：財務諸表は通常、企業は継続企業であり、予見可能な将来にわたって事業を継続するという前提に基づいて作成される。 -財務諸表の構成要素：財務諸表は、取引やその他の事象の財務的影響を大まかな分類に基づいて表現する。経済的特性によるそれらの分類は財務諸表の構成要素と呼ばれ、以下のようなものがある。 -財政状態 (financial position) の測定に直接関連する構成要素：資産、負債、資本 -業績 (performance) の測定に直接関連する構成要素：収益、費用 ※以下、「企業会計原則」より -真実性の原則：企業の財政状態および経営成績に関して、真実な報告を提供するものでなければならない -正規の簿記の原則：すべての取引につき、正規の簿記の原則に従って、正確な会計帳簿を作成しなければならない -資本取引・損益取引区分の原則：資本取引と損益取引とを明確に区別しなければならない -明瞭性の原則：利害関係者に対し必要な会計事実を明瞭に表示しなければならない -継続性の原則：会計処理の原則および手続を毎期継続して適用し、みだりにこれを変更してはならない -保守主義の原則：財政に不利な影響を及ぼす可能性がある場合には、適当に健全な会計処理をしなければならない -単一性の原則：種々の目的のために異なる形式の財務諸表を作成する場合でも事実の真実な表示をゆがめてはならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融庁「企業会計原則」 ・「基準」2320 ・「内部監査 アシュアランス業務とアドバイザリー業務 第4版」日本内部監査協会（第10章）

応用知識	財務分析を実施し、財務諸表を検証して解釈する。 Conduct financial analyses; examine and interpret financial statements.	内部監査部門の主旨は、財務諸表の分析と評価を実施して、内容を理解することができる。	・財務分析 ⇒次のような分析例がある。 - 百分率財務諸表の分析（垂直分析）：財務諸表の各項目を、関連する項目の合計に対する百分率で表す。 - 比率分析：関連する財務比率（例えば、流動比率、総利益率、在庫回転率、原材料費を完成品製造原価で割ったもの）、および非財務的な数値を含む比率（例えば、売上高を販売スペースの床面積で割ったもの、給与支払経費を平均従業員数で割ったもの、不良品の率）を計算する。 - トレンド分析（水平分析）：現在の会計年度のパフォーマンス情報（例えば、個々項目の金額、百分率、比率など）を、過去の会計年度のパフォーマンス情報と比較する。 - 未来志向の情報分析：現在の会計年度の情報を、予算または予測と比較する。 - 外部ベンチマーキング：組織体のパフォーマンス情報を、他の企業や当該組織体が属する業界のパフォーマンス情報と比較すること。 - 内部ベンチマーキング：ある組織体の部門のパフォーマンス情報を、組織体の他の部門の類似情報と比較すること。	
専門家	財務諸表の正確性を評価してアシュアランスを提供する。 Evaluate financial statement accuracy and provide assurance.	内部監査部門長は、財務報告の正確性を評価し、財務報告の信頼性に係る内部統制の有効性のアシュアランスを提供することができる。		

4. リーダーシップとコミュニケーション

① 内部監査の戦略計画と管理(1)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	内部監査の戦略計画と組織体の戦略を整合させることの重要性を認識する。 Recognize the importance of aligning the internal audit strategic plan with the organization's strategy.	内部監査人は、内部監査の戦略計画と組織体の戦略を整合させることの重要性を理解し、説明することができる。	・内部監査の戦略計画 ⇒IPPFの内部監査の定義にある「組織体の目標の達成に役立つ」ために、内部監査部門が策定する、「監査対象領域に関する計画、および監査資源確保、専門的能力向上、監査手法高度化などに関する計画」をいう。 ・組織体の戦略を整合させることの重要性 ⇒「組織体の価値を高め、保全する」ために、組織体の戦略を理解したうえで、前記内部監査の戦略計画を組織体の戦略と整合させることが重要であるということ。	・「定義」 ・「基準」 1220, 2030
応用知識	組織体の戦略、リスク・プロファイル、およびリスク・マネジメント戦略と整合した内部監査の戦略計画を策定し、内部監査部門の効果的かつ効率的な予算を策定する。 Create the internal audit strategic plan in alignment with the organization's strategy, risk profile, and risk management strategy; create an effective and efficient budget for the internal audit activity.	内部監査部門の主旨は、組織体の戦略、リスク・プロファイル、およびリスク・マネジメント戦略と整合した内部監査の戦略計画を策定し、内部監査部門の効果的かつ効率的な予算を策定することができる。		
専門家	内部監査の戦略計画を評価し、内部監査部門の予算を評価して改善を提言する。 Assess the internal audit strategic plan; evaluate and recommend improvements to the budget for the internal audit activity.	内部監査部門長は、内部監査の戦略計画を査定し、内部監査部門の予算を質的に評価して改善を提言することができる。		

② 内部監査の戦略計画と管理(2)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>個々の監査業務の監督者や内部監査部門長を含む、様々な内部監査の役割を区別する。</p> <p>Differentiate various internal audit roles, including the engagement supervisor and chief audit executive.</p>	<p>内部監査人は、個々の監査業務の監督者や内部監査部門長など、様々な内部監査の役割を区別して、違いを説明することができる。</p>		
応用知識	<p>(採用、育成、動機付け、対立管理、チーム作り、権限委譲、人材定着、後継者計画を含む。) 内部監査の人員を管理し、内部監査業務を管理するための方針と手続を策定する。</p> <p>Manage internal audit personnel (including recruiting, developing, motivating, managing conflict, building teams, delegating, retaining talent, and succession planning) ;create policies and procedures for managing internal audit operations.</p>	<p>内部監査部門の主査は、(採用、育成、動機付け、対立管理、チーム作り、権限委譲、人材確保、後継者育成を含む) 内部監査要員を管理し、内部監査業務管理のための方針と手順を策定することができる。</p>		
専門家	<p>内部監査部門の人材管理の取り組みを評価し、内部監査部門の方針、手続、および管理活動を評価する。</p> <p>Assess the talent management efforts of the internal audit activity; appraise policies, procedures, and administrative activities of the internal audit activity.</p>	<p>内部監査部門長は、内部監査部門の人材管理への取り組みを査定し、内部監査部門の方針、手続、および管理活動を評価することができる。</p>		

③ 内部監査の戦略計画と管理(3)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>個々の監査業務を監督する際の主な活動を識別する。</p> <p>Identify key activities in supervising engagements.</p>	<p>内部監査人は、個々の監査業務を監督する際の主な活動を説明することができる。</p>	<p>・監督する際の主な活動 ⇒【計画】 1. 配属される内部監査人が、職責を果たすために知識、技能、およびその知識を有していることの保証 2. 計画の立案にあたり適切な指示を与え、監査計画の承認をすること 【実施】 3. 正当化され、許可され他監査計画の変更を除き、承認された監査計画が実施されたことを確認すること 4. 監査調書が、監査所見、結論、および改善提案を十分に裏付けているか判断すること 【報告】 5. 監査結果の報告が、正確、客観的、明瞭、簡潔、建設的かつ適時的であることを確保すること 【全体】 6. 監査目標の達成を確保すること 7. 内部監査人に、知識、スキル、およびその他の能力を育成する機会を提供すること</p>	<p>・[基準] 2340 ・水島 正、衛藤秀三郎「内部監査基本テキスト 第4版」(P.255-256) 中央経済社、2020年</p>
応用知識	<p>個々の監査業務を監督する。</p> <p>Supervise engagements.</p>	<p>内部監査部門の主査は、個々の監査業務を監督することができる。</p>		

専門家	内部監査部門の品質を確保するために、個々の監査業務の監督活動を評価する。 Assess engagement supervision activities to ensure the quality of the internal audit activity.	内部監査部門長は、内部監査部門が行う監査の品質を確保するために、個々の監査業務の監督活動を評価することができる。		
-----	--	--	--	--

④ 監査計画とアシュアランス業務の連携(1)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	業界の動向や新たなリスクを含む、潜在的な監査業務の源泉を識別する。 Identify sources of potential engagements, including industry trends and emerging risks.	内部監査人は、業界の動向や新たなリスクを含む、潜在的に監査業務の対象となるものを識別することができる。		
応用知識	リスク評価を行い、個々の監査業務を優先順位付けし、リスク・ベースの内部監査計画を策定し、取締役会の承認を得る。 Conduct a risk assessment, prioritize engagements, develop a risk-based internal audit plan, and obtain board approval.	内部監査部門の主査は、リスクを評価し、個々の監査業務の優先順位をつけ、リスクに応じた内部監査計画を策定し、取締役会の承認を得ることができる。		
専門家	組織体のニーズの進化に応えるために、リスク・ベースの内部監査計画を評価して修正する。 Evaluate and revise a risk-based internal audit plan to meet the organization's evolving needs.	内部監査部門長は、組織体の多様化するニーズに対応するために、リスク・ベースの内部監査計画であるかどうかを判定して、修正することができる。		

⑤ 監査計画とアシュアランス業務の連携(2)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	外部監査人、規制監督機関、およびその他の内部のアシュアランス機能との内部監査業務の連携、ならびに他のアシュアランス提供者への依拠の可能性について説明する。 Describe coordination of internal audit efforts with the external auditor, regulatory oversight bodies, and other internal assurance functions, and potential reliance on other assurance providers.	内部監査人は、外部監査人、規制監督機関、および管理部門（二線組織）と内部監査業務の連携やこれらのアシュアランス提供者への依拠の可能性について説明することができる。	・連携、依拠 ⇒「基準 2050—連携と依拠」では、次の通りに規定されている。 「内部監査部門長は、適切な内部監査の業務範囲を確保し、業務の重複を最小限にするために、内部監査部門以外のアシュアランス業務やコンサルティング業務を提供する組織体内部および外部の者と、情報を共有し、活動について連携し、これらの者の仕事に依拠することを検討すべきである。」	・「基準」2050 ・「実施ガイダンス」2050
応用知識	リスク・アシュアランス・マップを作成する。 Prepare a risk assurance map.	内部監査部門の主査は、リスク・アシュアランス・マップを作成することができる。	・リスク・アシュアランス・マップ ⇒識別された重大なリスク・カテゴリーを関連するアシュアランスの資源と関連付け、各リスク・カテゴリーに付与されたアシュアランスのレベルを評定付けすること	
専門家	他のアシュアランス提供者と連携して、適切な業務範囲を確保し業務の重複を最小限に抑える。 Coordinate assurance efforts with other providers to ensure proper coverage and minimize duplication of efforts.	内部監査部門長は、他のアシュアランス提供者と連携して、適切な監査範囲を確保することができ、アシュアランス業務の重複を最小限に抑えることができる。	・他のアシュアランス提供者 ⇒内部のプロバイダ：最高経営者に直属する監督部門、または最高経営者の一員である監督部門が含まれる 例：環境、財務コントロール、健康および安全、ITセキュリティ、法務、リスク・マネジメント、コンプライアンス、品質保証 ※いわゆる「3線モデル」における「第2線」と考えられる 外部のプロバイダ：最高経営者もしくは外部の利害関係者に直属する場合、または内部監査部門長に雇用され直属する場合がある。	

⑥ 品質のアシュアランスと改善のプログラム

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	品質のアシュアランスと改善のプログラムの要件を説明する。 Describe requirements of the Quality Assurance and Improvement Program.	内部監査人は、品質のアシュアランスと改善のプログラムの要件を説明することができる。	・品質のアシュアランスと改善のプログラムの要件 ⇒「内部評価」と「外部評価」の両方を含めなければならない。 「内部評価」：内部監査部門の業務遂行についての継続的モニタリング／内部監査部門による定期的自己評価（または内部監査の実務について十分な知識を有する組織体内の内部監査部門以外の者による定期的評価のこと）。 「外部評価」：組織体外の適格にしてかつ独立した評価実施者または評価チームによって、最低でも5年に1度実施する評価	・「基準」1310, 1311, 1312, 1320
応用知識	要件に合うように内部と外部の品質のアシュアランス業務を計画して完了し、結果を報告する。 Schedule and complete internal and external quality assessments to meet requirements and report results.	内部監査部門の主旨は、要件を満たす内容で内部と外部の品質評価を計画、完了し、結果を報告することができる。		
専門家	内部監査部門の品質のアシュアランスと改善の実務を評価し、「基準」への適合を評価する。 Assess the internal audit activity's quality assurance and improvement practices and assess conformance with the Standards.	内部監査部門長は、内部監査部門の品質のアシュアランスと改善の実務を評価し、「基準」を満たしているのか評価することができる。		

⑦ 品質のアシュアランスと改善のプログラム

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	I I A の「内部監査の専門職的実施の国際基準」への適合と不適合の適切な開示要件を識別する。 Identify appropriate disclosure of conformance vs. nonconformance with The IIA's International Standards for the Professional Practice of Internal Auditing.	内部監査人は、I I A の「内部監査の専門職的実施の国際基準」への適合と不適合に関する適切な開示要件について理解している。	・開示要件 ⇒以下のようなことが挙げられる。 - 完全には適合できなかった、「倫理綱要」の「原則」もしくは「倫理行為規範」または「基準」の項目がある - 上記で不適合となった理由 - 不適合であることが個々の業務そのものおよび伝達された個々の業務の結果に与える影響	・「基準」2431
応用知識	「基準」への適合と不適合の適切な開示要件を策定する。 Formulate appropriate disclosures of conformance vs. nonconformance with the Standards.	内部監査部門の主旨は、「基準」への適合と不適合の適切な開示要件を策定できる。		
専門家	内部監査部門の「基準」への適合と不適合の適切な開示要件を評価する。 Assess the internal audit activity's disclosures of conformance vs. nonconformance with the Standards.	内部監査部門長は、内部監査活動が「基準」に適合するか不適合かの開示要件について、評価することができる。		

⑧ コミュニケーション（アドボカシー／関係構築）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	アドボカシーの価値とステークホルダー（例えば、取締役会、最高経営者、監査対象者、他のアシュアランス提供者、外部のステークホルダー）との関係維持の重要性を認識する。 Recognize the value of advocacy and the importance of maintaining stakeholder relationships (e.g., board, senior management, audit clients, other assurance providers, external stakeholders).	内部監査人は、アドボカシー（＝監査対象組織を支援・代弁すること）の価値と、ステークホルダー（取締役会、経営幹部、監査対象者、他のアシュアランス提供者、外部の利害関係者など）との関係維持の重要性を理解している。	・アドボカシー ⇒「擁護・代弁」や「支持・表明」「提唱」といった意味があるが、監査対象組織を「代弁」する内部監査部門の役割の重要性が脱かれていると当研究会では解釈した。	
応用知識	内部監査部門の評判とステークホルダーの期待を管理し、ステークホルダーとのコミュニケーションにおいて誠意、正直さ、共感を示し、信頼を築き関係を維持する。 Manage the internal audit activity's reputation and stakeholder expectations; demonstrate sincerity, honesty, and empathy in communications with stakeholders to build trust and maintain relationships.	内部監査部門の主旨は、内部監査活動の評判とステークホルダーの期待を対処し、ステークホルダーとのコミュニケーションにおいて誠実さ、正直さ、共感を示し、信頼を築き関係を維持することができる。		
専門家	ステークホルダーとの関係を評価し、改善のための措置を提言し、内部監査部門のアドボカシーの取り組みを評価する。 Assess stakeholder relationships and recommend actions to achieve improvements; evaluate the advocacy efforts of the internal audit activity.	内部監査部門長は、ステークホルダーとの関係を評価し、改善のための措置を提言し、内部監査活動におけるアドボカシー（監査対象組織を支援・代弁すること）の取り組みを判定することができる。		

⑨ コミュニケーション（報告）

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	重要業績評価指標を含む、内部監査人とステークホルダーとの適切なコミュニケーションについて説明し、内部監査部門長が組織体の内部統制とリスク・マネジメント・プロセスについて最高経営者と取締役会に報告することを認識する。 Describe appropriate communications between internal auditors and stakeholders, including key performance indicators; recognize that the chief audit executive reports on the overall effectiveness of the organization's internal control and risk management processes to senior management the board.	内部監査人は、自身と様々なステークホルダーとの間の、KPI（重要業績評価指標）を含む適切なコミュニケーションの重要性について説明することができる。例えば、内部監査部門長が組織体の内部統制やリスク・マネジメント・プロセスの総合的な有効性について最高経営者と取締役会に報告することの重要性を理解している。		

応用知識	<p>最高経営者と取締役会への報告 (例えば、重要なリスク・エクスポージャー、重要業績評価指標など) を含む、内部監査のステークホルダーに向けた関連性があり適切なコミュニケーションを用意する。</p> <p>Prepare relevant and appropriate communications for internal audit stakeholders, including reports to senior management and the board (e.g., significant risk exposures, key performance indicators, etc.).</p>	<p>内部監査部門の主査は、最高経営者や取締役会への報告 (例えば、重要なリスク・エクスポージャー、重要業績評価指標など) を含む、ステークホルダーとの適切なコミュニケーションに関する準備を行うことができる。</p>	
専門家	<p>内部監査部門の成功を評価する重要業績評価指標を含む、ステークホルダーとの内部監査のコミュニケーションを評価し、改善を提言する。</p> <p>Assess internal audit communications with stakeholders, including key performance indicators to evaluate the success of the internal audit activity, and recommend improvements.</p>	<p>内部監査部門長は、内部監査活動の有効性を評価するKPI (重要業績評価指標) を含む関係者とのコミュニケーションを検証し、改善を提言することができる。</p>	

⑩ コミュニケーション (ソフトスキル/イノベーション)

能力レベル	原和訳	内部監査能力 チェックシート	解説	出典・参考文献
	原文			
一般的認識	<p>対立管理、影響力、説得などのソフトスキルを含む、書面と口頭のコミュニケーション・スキルの重要性を認識する。</p> <p>Recognize the importance of written and verbal communication skills, including soft skills such as conflict management, influence, and persuasion.</p>	<p>内部監査人は、対立管理、影響力、説得などのソフトスキルを含む、書面と口頭のコミュニケーション・スキルの重要性を理解している。</p>	<p>・対立管理 ⇒反対の立場にある者同士の揉め事が激化しないよう処理すること</p> <p>・ソフトスキル ⇒非認知能力、指標化が難しい性格や気質に属する能力のこと。リーダーシップやモチベーションが含まれる</p> <p>・コミュニケーション・スキル ⇒他者と意思疎通を上手に図る能力</p>	
応用知識	<p>ソフトスキル (対立管理、影響力、説得) を実証し、組織体の有効性に貢献するための洞察のあるコンサルティングを行い、変革の機会を発見し、変革を促進する。</p> <p>Demonstrate soft skills (conflict management, influence, and persuasion); provide insightful consultation to contribute to the organization's effectiveness; detect opportunities for change and facilitate change.</p>	<p>内部監査部門の主査は、ソフトスキル (対立管理、影響力、説得) を駆使し、組織体の有効性に貢献するための洞察を提供し、変革の機会を捉え、変革を促進することができる。</p>		
専門家	<p>内部監査部門の書面と口頭のコミュニケーション・スキル、ソフトスキル、およびイノベーションを評価し、改善を提言する。</p> <p>Assess the internal audit activity's written and verbal communication skills, soft skills, and innovation; recommend improvements.</p>	<p>内部監査部門長は、内部監査活動の書面や口頭による意思疎通を図る能力、ソフトスキル、および技術革新の価値を判断する。それを基に、より望ましい内部監査活動に改めることを部門内に奨励する。</p>		

Ⅲ. おわりに（まとめ）

冒頭に述べたとおり、内部監査能力フレームワークを一般的な日本の組織（企業、団体等）にも適用できるように、より平易な内容にすべく整理、議論を続け、上述のとおりの実践的な「チェックシート」を策定するに至った。

内部監査部門が属する組織（企業、団体等）の業界や規模等は勘案せず汎用的な内容としているため、実際に自組織に導入する際には実態に合わせて取捨選択、修正等していただけたらと考える。

今回の研究成果が、高度化を目指す内部監査部門の内部監査人育成や教育担当の責を担う方々にとって一助となれば幸いである。

＜CIAフォーラム研究会No. h 1（内部監査人育成ベストプラクティス研究会）メンバー＞

（順不同・敬称略）

島田 裕次（統括座長）、渡辺 一史（座長）、宮本 幸治（成果物作成時座長）
城内 将人、渡辺 雅博、別所 俊男、黒田 浩史、野田 治範、真野 雄一、中西 太一、
犬塚 伸司、永田 勝久、田中 純、高辻 奈保子、田中 寿彦、森 厚子、内藤 拓

（メンバーの氏名は、2023年7月末現在）